

令和7年度
事業報告書



社会福祉法人 市原市社会福祉協議会

目 次

“社協の見える化・見せる化”の推進

- 1. 広報事業 1

財政基盤の充実・強化

- 1. トップセールスの推進 1
- 2. 社会福祉基金運用事業 2

人財育成及び人財確保

- 1. 職員研修 3

トップマネジメントの強化

- 1. 組織運営事業 5

地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり【共感】

- 1. 福祉意識の醸成 7
 - ・ 地域・福祉を知る機会の充実
 - ・ 人と人とのふれあいを育む場の推進
- 2. 小地域福祉活動の推進 1 2
 - ・ 地区社協の活動・運営支援
 - ・ 小域福祉ネットワークの活動・運営支援

地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり【共創】

- 1. 地域で孤立させない取組の強化 1 6
 - ・ 寄り添い支えていく体制の強化
 - ・ 生活を支えるための体制の強化
- 2. 地域福祉力の向上 2 8

地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり【共生】

- 1. 地域で活躍する人材の育成 2 9
 - ・ 福祉教育の推進
 - ・ 市内企業との連携
 - ・ ボランティア活動の推進
- 2. 権利擁護の推進 3 3
 - ・ 市原市成年後見支援センターの設置・機能の充実
- 3. 災害対応力の向上 3 8
 - ・ 災害ボランティアセンターの体制強化
 - ・ 災害ボランティアの育成・確保
 - ・ 災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施

指定管理施設の運営

- 1. 指定管理施設管理経営事業 4 1

"社協の見える化・見せる化"の推進

1. 広報事業

社会福祉への意識の高揚と社協の事業・活動への理解、認識の向上を目的に広報活動を行った。

(1) 機関紙「いちほら社協だより」の発行

79,000部を年3回発行【内訳 新聞折込：69,000部 町会回覧：10,000部】

号数	251号	252号	253号	号数
発行日	5月20日	9月20日	3月20日	発行日
頁数	4頁	4頁	4頁	頁数

(2) ホームページの運営

最新の情報を掲載し、市民の皆様に役立つ福祉情報を発信するため、情報提供の迅速化を図った。

市原市社会福祉協議会ホームページ：<http://www.ichihara-shakyo.or.jp>

(3) SNSの運営

ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を運営し、より多くの皆様に迅速かつ適切な情報を発信した。

X（エックス）	https://twitter.com/ichihara_ytb	
Facebook（フェイスブック）	https://www.facebook.com/ichiharayotuba/	
Instagram（インスタグラム）	本部	https://www.instagram.com/ichihara_ytb/
	関係施設	https://www.instagram.com/ichihara_ytb2/
LINE（ライン）	本部	@111xpewj
	関係施設	@612nqqzy
YouTube（ユーチューブ）	https://www.youtube.com/channel/UC7NZJKj8QYd0cnHHXXERyXw	

成果	若い世代の利用率が高い Instagram について継続的な運用を行い、本会の取組や社協関連施設の情報発信に活用した。特に、児童館のお知らせ等を発信している社協関連施設のアカウントでは閲覧数が大きく伸びており、多くの方に情報を届けることができていることが数値からも確認できる。 ◇ホームページ【閲覧回数 10,646 回】 ◇X【閲覧回数 2,641 回】 ◇Facebook【閲覧回数 5,395 回】 ◇Instagram【閲覧回数 25,069 回（本部：2,748 回、関係施設：22,321 回）】 ◇LINE【登録者数 423 人（社協公式：201 人、社協関係施設：222 人）】
課題・方向性	市民が気軽に閲覧できる SNS 等のツールを積極的に活用するとともに、本会の取組や地域における活動について、写真や動画を活用した分かりやすい情報発信の充実を図り、本会への理解促進と事業参加の促進につなげていく。

財政基盤の充実強化

1. トップセールスの推進

(1) 公的財源の確保

行政計画の具現化を図るための本会の活動計画の目標達成に向けて、安定した公的財源の確保を図るため、本会の取組みの成果や新たな提案について市長へトップセールスを行った。

市長訪問	8月7日	提案（要望）事項 1. 保健福祉センターの非公募化 2. 空調機及びブラインド等の回収 3. 職員の処遇改善
------	------	---

2. 社会福祉基金運用事業

(1) 社会福祉基金管理

幅広い地域福祉活動を進めていくための財源として有効的な活用を行った。

① 積立金

種別	積立預入先	金額
普通預金	千葉銀行	5,759,238 円
定額預金	ゆうちょ銀行	10,000,000 円
定期預金	J Aバンク	10,000,000 円
定期預金	千葉興業銀行	10,000,000 円
定期預金	京葉銀行	10,000,000 円
定期預金	君津信用組合	10,000,000 円
積立合計		55,759,238 円

② 債券

種別	銘柄名	金額
公募地方債	政府保証債第 284 回日本高速道路保有債務返済機構債権	100,000,000 円
公募地方債	千葉県第 10 回公募公債	100,000,000 円
合計		200,000,000 円

社会福祉基金総額	255,759,238 円
----------	---------------

(2) 社会福祉基金の活用

① 地区社協拠点整備

地区社協の充実・強化を図るため社会福祉基金と市の補助金を併用し、拠点改修費等及び賃借料等、維持管理経費を交付した。

No	地区名	拠点改修費等		拠点賃借料等		拠点維持管理経費
		社会福祉基金	市補助金	社会福祉基金	市補助金	社会福祉基金
1	辰巳台	0 円	200,000 円	0 円	0 円	240,000 円
2	市津	0 円	0 円	0 円	120,000 円	190,000 円
3	ちはら台	0 円	0 円	0 円	0 円	240,000 円
4	国分寺台	0 円	0 円	0 円	0 円	108,512 円
5	姉崎	0 円	0 円	0 円	0 円	35,000 円
6	有秋	0 円	0 円	0 円	726,000 円	240,000 円
7	千種	500,000 円	0 円	0 円	600,000 円	90,000 円
8	三和	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
9	南総	0 円	300,000 円	0 円	0 円	63,646 円
10	加茂	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
11	五井	0 円	306,042 円	0 円	480,000 円	129,147 円
12	市原	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円

【社会福祉基金 活用額】

拠点改修費合計：500,000 円（1 地区）拠点維持管理経費合計：1,336,305 円（9 地区）

② 地区社協事務局運営経費

地区社協の組織力や運営基盤の強化を図るため、事務局運営経費を交付した。

助成団体	助成金額	備考
地区社協	160,000 円×12 地区＝1,920,000 円	1 地区年額 160,000 円

③ 地区社協車両貸与事業

地区社協の生活課題を抱える地域住民への生活支援体制と充実強化に資するため車両の貸与（リース）を行った。

地区名	車両リース代	備考
辰巳台	82,500 円 (16,500 円/月×5 回) 142,450 円 (20,350 円/月×7 回)	日常生活支援事業コーディネート業務として
有秋	209,880 円 (17,490 円/月×12 回)	日常生活支援事業コーディネート業務として
五井	144,320 円 (18,040 円/月×8 回)	日常生活支援事業コーディネート業務として
国分寺台	144,320 円 (18,040 円/月×8 回)	日常生活支援事業コーディネート業務として

社会福祉基金活用額合計	4,479,775 円
-------------	-------------

人財育成及び人材確保

1. 職員研修

「職員研修規程」に基づき、職務の遂行に必要な資格、知識及び技術を習得させるとともに、社会福祉の向上に資するため次のとおり実施した。

(1) 職場研修

研修名	研修内容	期日	研修場所	受講者数
職員研修（キントーンの使用法）	災害 VC 運営において千葉県社協が導入したキントーンの操作方法について理解する	1 月 23 日	事務局	20 名
職員研修（地域資源管理システム）	市が導入する地域資源管理システムについて理解する	1 月 28 日	事務局	28 名
総務管理グループ				
第 1 回	社会福祉法人の登記について	6 月 20 日	事務局	2 名
第 2 回	社会福祉法人指導監査について	10 月 16 日	事務局	4 名
地域生活支援グループ【生活支援チーム】				
第 1 回	Kintone の基本操作と実践的な活用	1 月 23 日	事務局	4 名
第 2 回	災害ボランティアセンター設置運営訓練について方向性の共有	1 月 27 日 1 月 28 日	事務局	23 名
地域生活支援グループ【地域支援チーム】				
第 1 回	活動計画の個別事業の方向性に関する意見交換	9 月 19 日	事務局	6 名
第 2 回	個人情報の取扱いについて 地域支援チーム所管業務の取扱いについて	2 月 23 日	事務局	6 名
地域生活支援グループ【西部エリア推進センター】				
第 1 回	子どもの居場所づくりについて (子ども食堂立ち上げに向けて)	8 月 23 日	アネッサ	3 名
第 2 回	福祉避難所開設運営訓練について(事前学習)	1 月 28 日	アネッサ	4 名
地域生活支援グループ【中部・南部エリア推進センター】				
第 1 回	福祉避難所について	1 月 25 日	サンハート	3 名
第 2 回	個人情報保護規程について ・南部エリア推進センター取扱いマニュアルについて ・日常業務での注意事項	12 月 27 日	なのはな館	15 名
第 3 回	福祉避難所開設運営訓練について	2 月 5 日	サンハート	6 名

第4回	社協の見える化・見せる化（地域における SNS の活用に向けて）	2月9日	サンハート	3名
第5回	個別相談を通じた新たな資源の創出について（南総）	3月10日	サンハート	3名

（２）職場外研修

研修名	研修内容	期日	研修場所	受講者数
令和7年度市町村社会福祉協議会会長研修	地域共生社会の実現に向けた今後の社会福祉協議会の方向性について	1月20日	千葉県自治会館	2名
令和7年度千葉県コミュニティソーシャルワーカー育成研修【専門研修】	コミュニティソーシャルワークの手法、必要な知識、技術について	10月、12月 (計5日間)	千葉県経営者会館等	2名
ソウェルクラブ講習会【接遇講習会】	社会人として習得すべき「仕事の進め方」について	9月9日	オンライン	1名
令和7年度千葉県社会福祉法人経営者協議会第3回青年部会研修会	ディズニープラスホスピタリティと人財育成の基本について	3月6日	千葉県社会福祉センター	1名
社会福祉法人の会計と簿記研修【入門編】	簿記の基礎及び社会福祉法人の全体像について	4月23日	オンライン	1名
衛生推進者養成講習会	衛生推進者の養成について	12月19日	千葉県経営者会館	4名
令和7年度千葉県市町村社会福祉協議会新任職員研修会	社会福祉協議会の歴史と役割、実施事業及び実践報告について	6月5日	千葉県社会福祉センター	4名
令和7年度福祉・介護の就労定着支援セミナー	採用から雇用終了までの労務トラブル事例と実務対応について	1月22日	オンライン	1名
令和7年度千葉社協職員連絡協議会階層別研修（新任職員研修）	社協の役割と地域福祉の動向、実践報告について	11月25日	千葉県社会福祉センター	3名
日常生活自立支援事業【専門員実践力強化研修】	権利擁護支援及び相談援助の基本的な視点及び事業推進に必要とされる知識・技術の習得について	10月30日	オンライン	3名
災害VC運営システム（Kintone）研修会	災害VC運営システムの使用法	9月1日	千葉県社会福祉センター	2名
令和7年度市町村社会福祉協議会貸付新任担当・相談員研修会	貸付業務に関する基礎知識、償還業務について	4月15日 4月17日	千葉県社会福祉センター	1名

成果	多様な内部・外部研修への積極的な参加を通じ、専門領域における最新の動向や知識を習得した。これにより、職員個々の資質が向上し、日々の業務をより円滑かつ適切に遂行できる体制を整えた。
課題・方向性	引き続き職場外研修への積極的な参加に加え、職場内での業務の理解や円滑な進行を可能とするOJTを強化し、更なる資質向上を目指す。

トップマネジメントの強化

1. 組織運営事業

健全な社会福祉事業の経営と公正な法人運営を維持するため、次のとおり各会議を開催した。

(1) 正副会長会議

期日	内容
4月7日	報告事項（令和7年度組織運営体制について 他）
5月15日	1. 令和7年度第1回理事会上程議案について 2. 令和7年度福祉顕彰事業開催要領（案）について
6月11日	1. 令和7年度第1回評議員会上程議案について 2. 令和7年度第2回理事会上程議案について
7月9日	1. 姉崎保健福祉センター指定申請について 2. 市長訪問について
8月7日 市長訪問	提案（要望）事項 1. 保健福祉センターの非公募化 2. 空調機及びブラインド等の回収 3. 職員の処遇改善
8月20日	1. 姉崎保健福祉センター指定申請について 2. 令和7年度福祉顕彰事業における来賓（案）について
9月10日	1. 姉崎保健福祉センター指定申請について 2. 各計画の令和6年度評価（案）について ①第6次市原市地域福祉活動計画、②第4次社協発展・強化計画 3. 第7次市原市地域福祉活動計画の素案（たたき台）について 4. 地区社会福祉協議会推進事業補助金交付要綱の一部改正（案）について 5. 令和7年度第1回常任委員会の日程調整について 6. 令和7年度第3回理事会の日程調整について
10月8日	1. 令和7年度第3回理事会上程議案について 2. 社会福祉基金の運用について 3. 感謝状の贈呈について 報告事項（令和7年度千葉県社会福祉協議会会長表彰について）
11月12日	1. 令和7年度第4回理事会上程議案について
12月10日	1. 令和7年度福祉顕彰事業について 2. 第7次市原市地域福祉活動計画の素案について
1月16日	1. 令和7年度福祉顕彰事業について 2. 令和7年度第5回理事会及び第3回評議員会の日程について
2月18日	1. 令和7年度福祉顕彰事業について 2. 第7次市原市地域福祉活動計画の最終案について
3月4日	1. 令和7年度第5回理事会の上程議案について 2. 令和8年度市原市市民後見人養成講座の実施について

(2) 理事会及び評議員会

項目	期日	議案等
監査	5月21日	令和6年度分監査
第1回理事会 (16名出席)	6月5日	1. 令和6年度事業報告の承認について 2. 令和6年度決算の承認について [監査報告] 3. 令和7年度第1回補正予算(案)について 4. 地区社会福祉協議会推進事業補助金交付要綱の一部改正について 5. 小域福祉ネットワーク推進事業補助金交付要綱の一部改正について 6. 評議員選任候補者の決定について 7. 役員選任案の決定について 8. 令和7年度第1回評議員会の開催について
第1回評議員会 (41名出席)	6月24日	1. 令和6年度事業報告の承認について 2. 令和6年度決算の承認について [監査報告] 3. 令和7年度第1回補正予算(案)について 4. 役員の選任について
第2回理事会 (15名出席)	6月24日	1. 会長の選定について 2. 副会長の選定について 3. 常務理事の選定について 4. 評議員選任、解任委員会委員の選任について
第3回理事会 (18名出席)	10月31日	1. 職員の職の設置及び職務分類に関する規程の一部改正について 2. 地区社会福祉協議会推進事業補助金交付要綱の一部改正について 3. 市原市社会福祉協議会会長表彰状及び感謝状受賞者の承認について
第4回理事会 (18名出席)	12月16日	1. 副会長の選定について 2. 令和7年度第2回補正予算(案)について 3. 市原市社会福祉協議会会長表彰状及び感謝状受賞者の承認について(追加等) 4. 評議員選任候補者の決定について 5. 役員選任案の決定について 6. 令和7年度第2回評議員会の開催について 7. 福祉サービスにおける苦情解決第三者委員の委嘱について
第2回評議員会 (決議の省略)	1月23日	1. 令和7年度第2回補正予算(案)について 2. 役員の選任について
第5回理事会 (17名出席)	3月17日	1. 専決処分の承認を求めることについて 2. 令和7年度第3回補正予算(案)について 3. 給与規程の一部改正について 4. 会計規程の一部改正について 5. 情報公開規程の一部改正について 6. 令和8年度事業計画(案)について 7. 令和8年度予算(案)について 8. 令和7年度第3回評議員会の開催について
第3回評議員会 (名出席)	3月26日	1. 令和7年度第3回補正予算(案)について 2. 令和8年度事業計画(案)について 3. 令和8年度予算(案)について

(3) 常任委員会

期日	内容
10月8日	1. 各計画評価(案)について 2. 第7次市原市地域福祉活動計画の素案について
3月4日	1. 第7次市原市地域福祉活動計画の最終案について

(4) 評議員選任・解任委員会

期日	内容
6月19日	1. 評議員の選任について
1月31日	

(5) 福祉顕彰事業（第2部地域福祉講演会は役員研修を兼ねる）

市内の社会福祉の増進に寄与された方々に対し、表彰状及び感謝状を贈呈した。

期日	令和8年2月21日（土）
場所	市原市民会館小ホール
内容	第1部：表彰状感謝状贈呈式 表彰状 147名 感謝状 36団体、128名 第2部：地域福祉講演会 参加者261名（内、役員14名） 【こどもの居場所～こどもまんなかの地域づくり～】 講師 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 公共政策アドバイザー 湯浅 誠 氏

成果	各会議体においては、引き続き出席者から多くの建設的な発言があり、健全な組織運営の一助となった。3年に一度開催する福祉顕彰事業においては、地域福祉活動に尽力される方へ表彰状及び感謝状を贈呈し、また併せて実施する地域福祉講演会のテーマ・講師を市民の関心が高いものに設定することで、地域福祉活動の活気を高めることができた。
課題・方向性	各会議体で必要な協議・検討が積極的に行われる環境づくりに努め、健全な組織経営を継続していく。

地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり【共感】

1. 福祉意識の醸成

(1) 地域・福祉を知る機会の充実

①地域福祉活動の見える化・見せる化の推進

・SNSを活用した情報発信

一部の地区社協や小域福祉ネットワークにおいて、フェイスブックやエックス（旧ツイッター）などのSNSを活用し地域福祉活動の周知を図った。

②生活困窮者支援活動の推進

(ア)「いちほらフードネットワーク」（市原市独自のフードバンク）の推進

生活困窮者を地域全体で支える仕組みづくり（困ったときはお互いさまの地域づくり）に向けて、食料の支援が必要な世帯に対し、無償で食品を提供する常設型の「いちほらフードネットワーク」（市原市独自のフードバンク）を推進した。また、食品を安定的・効果的に確保するため、企業の社会貢献活動と連携した取組みを拡充させた。

協力企業	食品募集場所・期間
株式会社イトーヨーカ堂	イトーヨーカドーアリオ市原店（令和4年8月1日～） ヨークフーズちはら台店（令和7年10月1日～）
マックスバリュ関東株式会社	マックスバリュ辰巳台店（令和4年10月1日～）
生活協同組合コープみらい	コープデリ市原センター（令和5年7月7日～）
株式会社ベイシア	ベイシア市原八幡店（令和8年5月22日～）

＜食品受け入れ、提供実績＞

年度	食品受け入れ数	食品受け入れ重量	食品提供数	食品提供重量
R7年度	8,867品	4,574.66kg	5,537品	2,327.75kg

成果	継続的にイトーヨーカドーやマックスバリュ等に食品募集 BOX を設置し、来客や地域住民等から 合計 8,867 品、4,574.66 kg の食料品の寄付が集まった。食糧支援が必要な世帯への提供や地域・子ども食堂への支援、生活困窮者への支援等（5,537 品 2,327.75 kg）に活用することが出来た。 ・ベイシアと食品の寄付に関する覚書を締結し、食品回収 BOX の設置 ・ヨークフーズちはら台へ食品回収 BOX の設置。
課題・方向性	引き続き「困ったときはお互いさま」の意識醸成に向け、食品寄付の呼び掛けの充実や、食品提供を通じ支援が必要な世帯とのつながりの強化に努める。また、地域・子ども食堂等への食品提供を通じ、居場所づくり活動の活性化支援を図る。

（イ）フードパントリーの開催

生活困窮者を地域全体で支える仕組みづくり（困ったときはお互いさまの地域づくり）を普及させる一環として、子育て家庭等に対して食品を無償で提供するイベント型の「よつばちゃんのフードパントリー」を開催した。

・市社協主催「よつばちゃんのフードパントリー」

期日	11 月 30 日（日）
場所	市津公民館
参加者	辰巳台・市津・ちはら台地区在住で食品の提供を希望する子育て世帯（計 52 世帯）
内容	・地域住民や企業・商店等のご厚意により寄付いただいた食品の無償配布 ・いちほら生活相談サポートセンターによる出張相談 ・いちほら地域・子ども食堂ネットワークによる軽食提供 （地域食堂ひまわりカフェ、みんなのトイトイ食堂、辰巳台地域子ども食堂だんだん、地域食堂「コンパス」） ・辰巳台・市津・ちはら台地区関係者による遊び場の提供

・地域主催「フードパントリー」

実施地区	辰巳台地区	千種地区	国分寺台地区
回数	24 回	3 回	3 回

成果	よつばちゃんのフードパントリーでは、フードドライブで集まった食品のうち 1,025.95kg を地域の子育て家庭（支援が必要な世帯を含む）へ提供することが出来た。また、子育て家庭との交流を図る契機として、地域・子ども食堂ネットワークに加入する 4 団体の協力による活動周知や軽食の提供、また子どもが楽しめる場を設けた。本事業の実施にあたり、地区社協、小域福祉ネットワークや町会長会等の地域団体、いちほら生活相談サポートセンター等の専門機関等と連携したことで今後の支援に向けた連携体制構築の強化を図った。 また、地区社協を中心とした地域独自のフードパントリーの開催を通じ、「困ったときはお互いさまの地域づくり」の輪の広がりを感じている。
課題・方向性	今後は実施地区の拡充を図りながら各地区でフードパントリーを実施し、「困ったときはお互いさま」の意識の醸成を図っていく。

（ウ）フードドライブの試行実施

生活困窮者を地域全体で支える仕組みづくり（困ったときはお互いさまの地域づくり）を普及させる一環として、いちほら生活相談サポートセンターと連携した食品の寄付を募る「フードドライブ」を試行実施した。

期間	10 月 15 日（水）～11 月 15 日（土）
食品受付場所	市内 17 カ所
寄付総量	2,549.9kg
提供総量	2,297.25kg
提供先	①よつばちゃんのフードパントリーでの配布 ②食糧支援が必要な世帯への配布 ③地域で実施するフードパントリーでの配布

成果	地域住民、企業、団体及び行政機関等、多様な主体に広報・協力を行った結果、市民をはじめ、これまで接点のなかった企業からも新たに協力を得ることができ、2,549.9kgの寄付が集まり、徐々に地域全体で「困ったときはお互いさまの地域づくり」の輪が広がってきている。また、今回の取り組みを通じて、今後の継続的な活動に向けた基盤づくりにも繋がった。
課題・方向性	来年度の本格実施に向け、フードドライブの目的や意義を市民・企業に浸透させるため、効果的な広報手段の検討と協力依頼を強化していく必要がある。また、今回はフードバンクちば主催のフードドライブ強化期間や各地区の福祉バザーの献品期間と期間が重複したため、次年度は地域の実情も考慮し実施していく必要がある。

(エ) 制服リユース事業の試行実施

生活困窮者を地域全体で支える仕組みづくり（困ったときはお互いさまの地域づくり）の一環として、中学校へ入学する子どもを持つ家庭を対象に、不要となった制服の寄付を募り必要な家庭へ無償で提供する制服リユース活動を、地区社協・小域福祉ネットワークを中心に実施した。

実施主体	主な取り組み	令和7年度実績
市原市社会福祉協議会 国分寺台地区社会福祉協議会	・地区内小中学校へのチラシ配布（広報） ・制服寄贈の受付 ・制服譲渡会の開催	寄贈：54着 譲渡：43着
姉崎地区社会福祉協議会	・地区内小中学校へのチラシ配布（広報） ・制服寄贈の受付 ・制服譲渡会の開催	寄贈：6着 譲渡：7着
市東第一小学校区小域福祉ネットワーク（市津地区）	・地区内小中学校へのチラシ配布（広報） ・地区内町会等へのチラシ回覧（広報） ・制服寄贈の受付 ・希望者への制服譲渡	寄贈：0着 譲渡：1着
南総地区社会福祉協議会	・地区内小中学校へのチラシ配布（広報） ・福祉バザーを活用した制服譲渡	寄贈：57着 譲渡：37着
ちはら台地区社会福祉協議会	・地区内小中学校へのチラシ配布（広報） ・地区内自治会等へのチラシ回覧（広報） ・福祉バザーを活用した制服譲渡	寄贈：168着 譲渡：165着
湿津小学校区小域福祉ネットワーク（市津地区）	・地区内小中学校へのチラシ配布（広報） ・地区内町会等へのチラシ回覧（広報） ・制服寄贈の受付 ・希望者への制服譲渡	寄贈：33着

成果	身近な地域で困りごとを抱える子育て家庭を支えるため、地区社協、小域福祉ネットワークが地区内の小・中学校、市民活動団体などと連携し、家庭や地域住民等へ寄贈の呼び掛けを行うことで、使わなくなった学生服を必要な子育て家庭へ譲渡する橋渡し役を担い、つながりを持つ契機とした。また、新たに湿津小学校区小域福祉ネットワークで取り組みを開始し、5つの地区で活動を展開した。
課題・方向性	実施地区の拡充に向け、地域ニーズの把握や、必要な家庭へ制服を提供するためのマッチング体制や広報活動の強化を図るとともに、支援を通じてつながった家庭の生活課題を把握し、必要な支援につないでいく必要がある。

③福祉バザー事業等・歳末たすけあい募金事業

歳末たすけあい運動への協力として、福祉バザーや歳末たすけあい募金を実施した。

〈福祉バザー等〉

地区	会場	売上額	寄付金等	合計
辰巳台	辰巳公民館	181,636円	77,841円	259,477円
市津	市津公民館	29,200円	5,025円	34,225円
ちはら台	ちはら台コミュニティセンター	87,150円	23,208円	110,358円
姉崎	姉崎保健福祉センター	315,994円	8,731円	324,725円

有秋	有秋公民館	294,240 円	24,160 円	318,400 円
千種	千種コミュニティセンター	76,600 円	25,045 円	101,645 円
南総	南総公民館	329,620 円	245,643 円	575,263 円
合計		1,314,440 円	409,653 円	1,724,093 円

〈 歳末たすけあい募金 〉

地区	募金額 (R7)	募金額 (R6)	前年比
辰巳台	73,710 円	88,062 円	△14,352 円
市津	20,000 円	22,000 円	△2,000 円
国分寺台	320,070 円	317,570 円	2,500 円
千種	0 円	10,000 円	△10,000 円
三和	192,500 円	186,800 円	5,700 円
南総	0 円	1,600 円	△1,600 円
加茂	183,850 円	140,300 円	43,550 円
五井	803,323 円	904,144 円	△100,821 円
市原	617,540 円	616,350 円	1,190 円
個人・団体等	53,776 円	28,763 円	25,013 円
合計	2,264,769 円	2,315,589 円	△50,820 円

(2) 人と人とのふれあいを育む場の推進

① 共生型事サロン事業の推進

高齢者、就学前の親子、障がい者を含む地域の誰もが参加できる地域住民の交流を目的とした場の推進を図った。

地区	会場数	開催日数	延参加者数
辰巳台	5 会場	99 日	1,133 名
市津	8 会場	50 日	903 名
ちはら台	6 会場	120 日	1,490 名
国分寺台	4 会場	35 日	652 名
姉崎	1 会場	10 日	221 名
有秋	2 会場	21 日	644 名
千種	1 会場	6 日	8 名
三和	3 会場	35 日	569 名
南総	14 会場	134 日	2,648 名
加茂	4 会場	59 日	760 名
五井	6 会場	28 日	621 名
市原	10 会場	169 日	3,182 名
合計	64 会場	766 日	12,831 名

② 子育てサロン（旧ふれあいサロン事業）

子育て家庭等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	会場数	開催日数	延参加者数
姉崎	1 会場	11 日	353 名
三和	1 会場	10 日	152 名
合計	2 会場	21 日	505 名

成果	地域共生社会づくりに向けあらゆる世代の交流を育むため、地域の誰もが気軽に参加し活躍できる「共生型サロン事業」を市内 64 会場で実施し、延べ 12,831 名の方々が参加(利用)することで、住民同士の交流やつながりを促進する契機とした。
課題・方向性	誰もが気軽に参加でき、孤独・孤立を防ぎ人と人、人と地域のつながりが実感できる地域づくりに向けた多様な居場所を整備していく。

③子どもの居場所づくり活動の推進

(ア) 地域・子ども食堂、学習支援活動等

地区社協と地域の関係団体等が協働し、子どもたちが多様な地域の方々と食事等を通じたふれあいや健全育成の機会を提供し、地域で子どもたちが安心して暮らせるような福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
辰巳台	12 日	1,054 名	366 名	地域の中で子どもたちが学校や家以外で集まれる居場所として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：地域・子ども食堂だんだん】
市津※	3 日	70 名	30 名	地域の中で子どもたちが学校や家以外で集まれる居場所として開催。レクリエーションや食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。
ちはら台※	20 日	317 名	108 名	地域の中で子どもたちが学校や家以外で集まれる居場所として開催。学習支援を通じて世代間交流を図った。 【名称：寺子屋ちはら】
ちはら台※	2 日	140 名	20 名	地域の中で子どもたちが学校や家以外で集まれる居場所として開催。レクリエーションや軽食の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：子どもカフェ】
国分寺台	20 日	359 名	235 名	地域の中で子どもたちが学校や家以外で集まれる居場所として開催。学習支援や食事の提供を通じて世代間交流を図った。 【名称：地域食堂コンパス】
国分寺台	21 日	153 名	97 名	地域の中で子どもたちが学校や家以外で集まれる居場所として開催。学習支援を通じて世代間交流を図った。 【名称：トリノス】
姉崎	9 日	184 名	147 名	元気な高齢者や高校生等ボランティアの参加のもと、小学生を中心とした、子どもの居場所として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：げんき食堂アネッサ】
姉崎	12 日	444 名	47 名	地域の中で子どもたちが学校や家以外で集まれる居場所として開催。レクリエーションや食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：みんなの居場所 Laulele】
有秋	10 日	287 名	208 名	地域の中で子どもたちが学校や家以外で集まれる居場所として開催。レクリエーションを行うとともに世代間交流を図った。 【名称：あそびの広場】

有秋※	3 日	108 名	44 名	地域の中で子どもたちが学校や家以外で集まれる居場所として開催。レクリエーションや食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：子ども食堂どんぐり】
千種	12 日	282 名	170 名	地域の中で子どもたちが学校や家以外で集まれる居場所として開催。レクリエーションや食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：地域食堂わいわい】
五井	10 日	151 名	107 名	地域の中で子どもたちが学校や家以外で集まれる居場所として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：子ども食堂ごい 5 1】

※試行実施地区：ちはら台地区、市津地区、有秋地区

	年度	開催日数	参加者数	支援者数
子どもの居場所 合計	R7 年度	134 日	3,549 名	1,579 名
	R6 年度	91 日	2,145 名	1,253 名
	増 減	43 日	1,404 名	326 名

(イ) いちはら地域・子ども食堂ネットワーク

市内で地域・子ども食堂を実施する団体等の情報交換や相互交流を促進するとともに、活動の輪を広げることを目的としたネットワーク組織を設立し、その事務局として活動団体の支援の他、市民への周知啓発活動を行った。

項目	期日	参加 団体数	内容
第 1 回連絡会	7 月 14 日	13 団体	・地域・子ども食堂立ち上げ運営マニュアルについて ・こどもの居場所づくりコーディネーターの配置について ・広報用リーフレットとホームページの更新について ・ネットワーク研修会企画（案）について ・「よつばちゃんのフードパントリー」の実施について ・意見交換：「地域・子ども食堂の広がりに向けて」
研修会	2 月 21 日	—	【地域福祉講演会】 「こどもの居場所～こどもまんなかの地域づくり～」 認定 NPO 法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ 公共政策アドバイザー 湯浅 誠 氏
第 2 回連絡会	3 月 5 日	12 団体	・「よつばちゃんのフードパントリー」に関する結果報告 ・ネットワーク研修会実施報告 ・ネットワークの今後のあり方について 《事務局 説明》社会福祉法人市原市社会福祉協議会 《行政 説明》市原市役所子ども未来部子ども福祉課 《受託先 説明》NPO 法人いはら市民活動協議会
千葉県子ども食堂 ネットワーク会議	10 月 29 日	—	・国の政策とこども・若者の居場所について - こども家庭庁支援局家庭福祉課 ・令和 7 年度千葉県こども食堂実態調査の結果について - 千葉県健康福祉部子育て支援課 【事例発表】 (1) 千葉県こども食堂サポートセンター (2) 木更津・内房こども食堂ネットワーク (3) ふなばしこども食堂ネットワーク
その他	随時	—	・相談（新規立ち上げ、活動の参加について） 52 件 ・助成金案内、申請支援 11 件 ・食品寄付の引き渡し 18 団体 172 件 ・広報用リーフレット配布 15,000 部 （地域関連団体や行政機関等）

成果	市内の地域食堂、子ども食堂の実践者同士のつながりを促進し、新規立ち上げを希望する団体や個人の活動を支援するため、ネットワーク会議を定期開催し、積極的な情報交換を行った。また、子どもたちが家庭や学校以外で安心して過ごせる居場所づくりを推進し、地区社協を中心に「レクリエーションを通じた交流」や「学習支援」などの活動が展開された。
課題・方向性	令和7年度末を以って、ネットワーク機能を特定非営利活動法人いちほら市民活動協議会が事務局を担う「子どもの学び・居場所ネットワークいちほら」に移管、一元化し、本ネットワークを発展的に解消とした。今後は、子どもの居場所づくりコーディネーターや新たに設置されるネットワークとの連携を図り、地区社協が取り組む子どもの視点に立った多様な居場所の整備に取り組むこととする。

2. 小地域福祉活動の推進

(1) 地区社協の活動・運営支援

地区社協で行われる会議に地区担当職員が参加し、必要な情報提供、助言、アドバイスをを行う等積極的な支援に取り組んだ。

① 地区社協事業一覧

		辰巳 台	市津	ちは ら台	国分 寺台	姉崎	有秋	千種	三和	南総	加茂	五井	市原
基本事業	共生型サロン事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	広報・啓発事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歳末たすけあい運動 協力事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地区行動計画策定・推 進事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	多様な主体との連携 づくり事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	相談支援事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	高齢者地域支え合い 事業(第2層協議体)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
先駆的・ 開拓的 事業	日常生活支援事業 (住民参加型在宅福祉サービス)	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
	日常生活支援事業 (事業化・活性化推進サービス)		○			○	○						
	人材育成事業	○	○	○	○		○			○	○	○	
	災害支援ボランティア事業	○		○	○		○			○	○	○	
	お互いさまの地域づくり事業	○	○	○	○	○		○		○			

② 地区社協における各会議体の実施概要

年度	開催日数	延参加人数
R7 年度	286 日	3,227 名
R6 年度	305 日	3,636 名
増減	△19 日	△409 名

(2) 地区社協への財政支援

① 活動経費

地区行動計画に定める事業活動の推進を図るため、活動経費（市補助金）を交付した。

助成団体	助成金額	備考
地区社協	150,000 円×12 地区=1,800,000 円	1 地区年額 150,000 円

② 地区社協拠点整備【再掲】

地区社協の充実・強化を図るため社会福祉基金と市の補助金を併用し、拠点改修費等及び賃借料等、維持管理経費を交付した。

No	地区名	拠点改修費等		拠点賃借料等		拠点維持 管理経費
		社会福祉基金	市補助金	社会福祉基金	市補助金	社会福祉基金
1	辰巳台	0 円	200,000 円	0 円	0 円	240,000 円
2	市津	0 円	0 円	0 円	120,000 円	190,000 円
3	ちはら台	0 円	0 円	0 円	0 円	240,000 円
4	国分寺台	0 円	0 円	0 円	0 円	108,512 円
5	姉崎	0 円	0 円	0 円	0 円	35,000 円
6	有秋	0 円	0 円	0 円	726,000 円	240,000 円
7	千種	500,000 円	0 円	0 円	600,000 円	90,000 円
8	三和	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
9	南総	0 円	300,000 円	0 円	0 円	63,646 円
10	加茂	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
11	五井	0 円	306,042 円	0 円	480,000 円	129,147 円
12	市原	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円

【社会福祉基金 活用額】

拠点改修費合計：500,000 円（1 地区）拠点維持管理経費合計：1,336,305 円（9 地区）

③ 地区社協事務局運営経費【再掲】

地区社協の組織力や運営基盤の強化を図るため、事務局運営経費を交付した。

助成団体	助成金額	備考
地区社協	160,000 円×12 地区=1,920,000 円	1 地区年額 160,000 円

④ 地区社協車両貸与事業【再掲】

地区社協の生活課題を抱える地域住民への生活支援体制と充実強化に資するため車両の貸与（リース）を行った。

地区名	車両リース代	備考
辰巳台	82,500 円 (16,500 円/月×5 回) 142,450 円 (20,350 円/月×7 回)	日常生活支援事業コーディネート業務として
有秋	209,880 円 (17,490 円/月×12 回)	日常生活支援事業コーディネート業務として
五井	144,320 円 (18,040 円/月×8 回)	日常生活支援事業コーディネート業務として
国分寺台	144,320 円 (18,040 円/月×8 回)	日常生活支援事業コーディネート業務として

成果	各種会議や事業等に地区担当職員が積極的に参加し、地域福祉活動の実践に関する相談や必要な情報提供を行うことで、地域特性を踏まえた活動の促進につながった。また、安定的な事業活動の運営や活動拠点の整備に向けて行政や本会による財政支援を行った。
課題・方向性	引き続き、住民に身近な範域における地域課題、ニーズに基づく地域福祉活動が安定的に展開できるよう、今後も財政支援や地区担当職員による継続的な支援を行っていく。

(2) 小域福祉ネットワークの活動・運営支援

小域福祉ネットワークで行われる会議に地区担当職員が参加し、必要な情報提供、助言、アドバイスを
行う等積極的な支援に取り組んだ。

①小域福祉ネットワーク一覧

地区名	校区名	ネットワーク名	設置年月日	安心生活見守り支援事業
辰巳台	辰巳台東小学校区	辰巳福祉ネットワーク	昭和 63 年 6 月 26 日	○
	辰巳台西小学校区			
	白幡小学校区			
市津	旧市東第二小学校区	市東第二小区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 10 月 3 日	○
	湿津小学校区	湿津小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 11 月 27 日	○
	市東第一小学校区	市東第一小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 11 月 28 日	○
ちはら台	水の江小学校区	水の江小学校区小域福祉ネットワーク	平成 18 年 7 月 15 日	○
	清水谷小学校区	清水谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 12 月 1 日	○
	牧園小学校区	牧園小学校区小域福祉ネットワーク	平成 22 年 11 月 1 日	○
	ちはら台桜小学校区	ちはら台桜小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 30 日	○
国分寺台	国分寺台西小学校区	国分寺台西小学校区ふれあいネットワーク	平成 19 年 2 月 24 日	○
	国分寺台小学校区	国分寺台小学校区ふれんどネットワーク	平成 22 年 2 月 19 日	○
	国分寺台東小学校区	国分寺台東小学校区思いやりネットワーク	平成 24 年 10 月 30 日	
姉崎	姉崎小学校区	姉崎小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 2 月 21 日	○
	明神小学校区	明神小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 4 月 25 日	○
	青葉台小学校区	青葉台小学校区小域福祉ネットワーク	平成 22 年 8 月 1 日	○
有秋	有秋南小学校区	有秋南小学校区安心安全ネットワーク	平成 24 年 1 月 23 日	○
	有秋西小学校区	有秋西小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 14 日	
	有秋東小学校区	有秋東小学校区福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 21 日	○
三和	市西小学校区	市西小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	海上小学校区	海上小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	養老小学校区	養老小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	光風台小学校区	光風台小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
南総	牛久小学校区	牛久小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 1 月 26 日	○
	旧内田小学校区	内田地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 1 月 22 日	○
	寺谷小学校区	寺谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 2 月 21 日	○
	旧平三小学校区	平三地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 6 月 20 日	○
	鶴舞小学校区	鶴舞地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 7 月 8 日	○
	戸田小学校区	戸田小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 2 月 28 日	○

加茂	旧白鳥小学校区	白鳥地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 22 日	○
	旧富山小学校区	富山地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 23 日	○
	旧高滝小学校区	高滝地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 25 日	○
	旧里見小学校区	里見地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 3 月 24 日	○
五井	白金小学校区	白金小学校区スマイルネットワーク	平成 24 年 3 月 24 日	○
	若葉小学校区	わかば福祉ネットワーク	平成 24 年 4 月 12 日	○
	千種小学校区	千種小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 4 月 20 日	○
	東海小学校区	東海小・中学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 5 月 26 日	○
	国府小学校区	国府小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 10 月 9 日	○
	五井小学校区	五井福祉ネットワーク	平成 29 年 12 月 9 日	○
	京葉小学校区	京葉福祉ネットワーク	平成 31 年 2 月 24 日	○
市原	若宮小学校区	若宮小学校区まんまるネットワーク	平成 22 年 5 月 22 日	○
	石塚小学校区	石塚小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 25 日	○
	五所小学校区	五所小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 7 月 1 日	○
	菊間小学校区	菊間小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 3 月 2 日	○
	八幡小学校区	八幡小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 7 月 14 日	○
	市原小学校区	市原小学校区小域ネットワーク	平成 30 年 6 月 2 日	○
44 団体（46 学校区）			実施 42 団体 （43 校区）	

②小域福祉ネットワークにおける各会議体の実施概要

年度	開催日数	延参加人数
R7 年度	315 日	4,200 名
R6 年度	353 日	4,966 名
増減	△38 日	△766 名

成果	各種会議や事業等に地区担当職員が積極的に参加し、地域福祉活動の実践に関する相談や必要な情報提供を行うことで、地域特性を踏まえた活動の促進につながった。
課題・方向性	引き続き、住民に身近な範域における地域課題、ニーズに基づく地域福祉活動が安定的に展開できるよう、今後も地区担当職員による継続的な支援を行っていく。

(3) 地区社協連絡会の開催

地区社協活動に関する情報交換、連絡調整及び調査研究等を行うことを目的として、次のとおり地区社協連絡会を開催した。

項目	期日	議題
第1回 地区社協連絡会	5月27日	【会議】 ・協議事項 (1) 地区社協連絡会代表及び副代表の選出について (2) 市原市社会福祉協議会理事及び評議員候補者の選出について (3) 災害ボランティア活動連絡調整会議への参加について (4) 地区社会福祉協議会推進事業補助金交付要綱の一部改正について ・報告事項 地区社会福祉協議会運営費補助金交付要綱及び先駆的・開拓的事業補助金交付要綱について 【説明】 (1) 市社協と地区社協の関係性について (2) 各種補助金の目的や申請スケジュールについて (3) 地区担当職員の役割について
第2回 地区社協連絡会	7月29日	【会議】 ・協議事項 (1) 令和7年度歳末たすけあい運動協力事業について (2) 令和7年度よつばちゃんのフードパントリーの実施について ・報告事項 地区社会福祉協議会推進事業補助金交付要綱について 【実践発表】 子どもの居場所づくり事業の取り組み状況について
第3回 地区社協連絡会	9月30日	【会議】 ・協議事項 (1) 令和7年度福祉バザー等の実施に伴う廃棄物の収集について (2) 令和7年度地域福祉支援事業について (3) 令和7年度よつばちゃんのフードパントリーについて (4) フードドライブ活動の試行実施について (5) 第7次市原市地域福祉活動計画について（素案たたき台） 【意見交換会】 いちはら地域連携型相談支援事業の推進について
第4回 地区社協連絡会	1月27日	【会議】 ・報告事項 (1) 令和7年度歳末たすけあい運動協力事業の実績報告について (2) 令和7年度地域福祉支援事業の実績報告について (3) 令和7年度「フードドライブ」試行実施の結果について (4) 令和7年度「よつばちゃんのフードパントリー」の実施報告について (5) 第3次地区行動計画の策定状況について 【実践報告】 「地域におけるフードパントリー活動について」（国分寺台・千種地区）
第5回 地区社協連絡会	3月13日	【会議】 ・協議事項 (1) 令和8年度地区社会福祉協議会補助金積算額（案）について (2) 第7次市原市地域福祉活動計画の最終案について (3) 令和8年度地区社協連絡会の開催予定について (4) 災害ボランティア活動連絡調整会議への参加報告について 【実践発表】 「子どもの居場所づくりについて」 講師：こどもの居場所づくりコーディネーター

成果	地区社協の基本事業、先駆的・開拓的事業の推進に係る意見交換や成功事例を用いた実践発表などを通じて、取り組みの具現化に必要な視点などの共通理解が図れた。 また、新たに策定する第7次活動計画及び第3次地区行動計画で連携・連動して取り組む施策や方向性などの共有が図れ、更なる地域福祉推進の基盤強化につながった。
課題・方向性	今後も活動計画の施策の着実な推進に向けた情報共有や理解を深める機会として開催するとともに、活動上の諸課題を引き出し解決方策などの意見交換を行うことで、その後の施策に反映できるような「ボトムアップ型」の会議運営に努める。

(4) いちはら小域福祉ネットワーク連絡会議の開催

小域福祉ネットワークの更なる推進を図るため、組織間の連携体制を構築するとともに、併せて市全域の地域福祉推進の在り方について検討・協議することを目的に次のとおり開催した。

項目	期日	議題
第1回 いちはら小域福祉ネットワーク連絡会議	10月20日	【会議】 ・協議事項 「第7次市原市地域福祉活動計画」について 【講演】 ・居場所づくりの基本 ～居場所づくりは地域づくり～ 講師：一般社団法人コミュニティネットハピネス 代表理事 土屋幸己 氏 【全体会】 ・意見交換（グループワーク）
第2回 いちはら小域福祉ネットワーク連絡会議	3月9日	【会議】 ・協議事項 (1) 代表及び副代表の選出について (2) 市社協理事及び評議員候補者の選出について (3) 第7次市原市地域福祉活動計画（最終案）について ・事業説明 安心生活見守り支援事業の概要について 【全体会】 ・意見交換（グループワーク）

成果	第6次活動計画に基づく共生型サロンなど普及の取組内容の活性化を図るために「誰もが集いつながる居場所づくり」をテーマに、各団体における居場所づくり活動の状況報告・意見交換を行い、今後の取組を後押しする機会となった。 また、安心生活見守り支援事業における対象者の把握状況についての意見交換を行うことにより、事業全体の課題や方向性を検討することができた。
課題・方向性	各ネットワークが地域課題の解決に向けた自発的な取り組みが実践できるよう、成功事例などを用いた講義や実践報告、また、グループワークなどを通じ活動上の諸課題について意見交換を行い、より発展的な活動を促進する機会を引き続き設けていく。

地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり【共創】

1. 地域で孤立させない取組の強化

(1) 寄り添い支えていく体制の強化

①新たな相談支援体制の構築【いちほら地域連携型相談支援事業】

住民が抱える生活課題の複雑多様化や潜在的ニーズの掘り起こしの必要性に伴い、市社協の強みである地域の繋がりを活用し、地域と連携・密着した相談支援事業を推進する。

(ア) いちほら総合相談・生活支援事業（市社協窓口相談）

誰もが住み慣れた地域で、自立して暮らせるまちづくりを目指して、住民が抱える生活課題の解決に向けて、包括的かつ重層的な相談支援を行い、課題の解決に向けた個別支援や関係機関との連絡調整を行った。

年度	生計	職業 生業	教育 子育て	障がい	療養 健康	生活	償還	その他	合計
R7 年度	182 件	1 件	181 件	3 件	2 件	0 件	16 件	1 件	386 件
R6 年度	276 件	1 件	165 件	3 件	0 件	9 件	41 件	1 件	496 件
増 減	△94 件	0 件	16 件	0 件	2 件	△9 件	△25 件	0 件	△110 件

(イ) 各地区における相談事業

地域住民が気軽にできる窓口であり、市社協や関係機関等へのつなぎ役・橋渡し役を担う相談支援事業を行った。

地区	開催日数	延相談人数	延支援者数	内容等
辰巳台	24 日	20 名	53 名	地区社協事業の居場所づくり事業において、相談ブースを設置し「なんでも相談」を実施。月 2 回
市津	41 日	9 名	82 名	毎週月・水曜日の 10 時～12 時、拠点を活用した相談支援活動を実施（役員 2 名の輪番）
国分寺台	37 日	21 名	34 名	地区内の様々な問題をサロン開設時や電話、事務所への来所で受付、課題の発見とその解決に向けた事業展開を実施。
ちはら台	244 日	39 名	364 名	地区社協事務所にて相談ブースを設け、週 5 回、10 時～12 時に日常生活上の困りごと、助け合い利用相談などを窓口、電話対応等で実施。また、専門機関の協力を得て、月 1 回「福祉総合相談窓口」を設置。
姉崎	42 日	33 名	42 名	各種事業（共生型サロンや地域食堂など）実施時に、生活上の困りごとに対する相談ブースを設置。月 3 回実施
有秋	18 日	23 名	69 名	地域住民の悩み事や困りごとに対し、毎月第 2、第 4 月曜日 10 時～12 時にオアシス有秋にて民生児童委員、地区社協関係者が対応。
三和	141 日	20 名	309 名	子育てサロン（月 1 回）の開催時や日常生活支援事業の窓口受付（週 3 回）の際に気軽に相談できる場として実施した。
南総	38 名	105 名	60 日	南部保健福祉センター相談室において、毎週土曜日 13 時～15 時相談窓口を開設。また、共生型サロン開設時に会場内の一角に相談ブースを設置した。
市原	6 日	0 名	0 名	共生型サロン事業の開催時に気軽に相談できる場として実施。
五井	11 日	12 名	20 名	五井公民館において、毎月第 1 木曜日 10 時 30 分～11 時 30 分で誰でも気軽に相談に来られる場として開設。 イベント会場（五井大市）にて出張相談所を 2 日間開設。
加茂	365 日	73 名	73 名	地区内の社会福祉法人と連携し、施設内に誰でも相談できる窓口を設置。また、共生型サロン開設時に会場内の一角に相談ブースを設置

千種	25 日	65 名	63 名	地域住民の困りごとに対し、毎月第 1 水曜日 10 時～12 時に地区社協拠点にて気軽に相談することのできる相談室を開設。民生児童委員、地区社協関係者が対応。また、共生型サロン、フードパントリー等の事業実施時に相談室を併設。
----	------	------	------	--

年度	開催地区	開催日数	延相談者数	延支援者数
R7 年度	12 地区	992 日	420 名	1,169 名
R6 年度	12 地区	907 日	444 名	1,101 名
増減	—	85 日	△24 名	68 名

成果	本会の相談窓口では、経済的な課題を抱える世帯に、生活福祉資金貸付(緊急小口資金等)の相談を切り口とし、専門機関等と連携しながら生活の改善に向けた支援に努めた。地域での相談支援活動では、住民に身近な場における困りごと相談の実施や地域の関係団体とのつながりを活かし、住民の異変に早期に「気づく」、必要な支援に「つなぐ」、その後の生活を緩やかに「見守る」一連の相談プロセスに基づく地域密着型の相談支援活動の展開を図った。また、複数の地域の支援を必要とする事例に対し、地域の関係者が支援方法を検討する「ケース」会議を試行的に実施した。
課題・方向性	地域関係者間で一連の相談プロセスの理解促進と取組を定着させていくとともに、取り組みの活性化に向けた市社協の事業担当者や地区担当職員による継続的な支援に努める。

②民生委員・児童委員活動の支援

市原市民生委員児童委員協議会の事務局として、その活動の推進を図った。

期日		事業名	人数	場所
月	日			
4	18	県民児協第 1 回新任民生委員児童委員研修会	2 名	千葉県社会福祉センター
	25	市民児協会計監査	5 名	市社協
	25	市民児協第 1 回正副会長・部会長会議	5 名	市社協
	30	市民児協第 1 回理事会	15 名	市社協
	30	市民児協代議員会	36 名	市社協
5	5～11	児童福祉週間	全委員	市内各地
	12～18	「民生委員・児童委員の日」活動強化週間	全委員	市内各地
	23	県民児協第 1 回評議員会	1 名	千葉県社会福祉センター
6	20	市民児協第 1 回地域福祉推進部会	18 名	市社協
	23	市民児協第 1 回主任児童委員部会	23 名	市社協
	23	市民児協第 2 回正副会長・部会長会議	5 名	市社協
7	3. 29	事例検討研修会	22 名	千葉県教育会館
8	29	市民児協合同部会	22 名	市社協
	29	市民児協第 3 回正副会長・部会長会議	5 名	市社協

9	3～5	第 94 回全国民生委員児童委員大会	1 名	北海道
	5	市民児協第 2 回地域福祉推進部会	18 名	市社協
	8	市民児協第 2 回主任児童委員部会	19 名	市社協
	24	市民児協全体研修会	292 名	市原市市民会館
10	17	第 54 回六市民生委員児童委員協議会会長・副会長研修会	3 名	千葉市
	21	第 21 回千葉県民生委員児童委員大会	34 名	青葉の森芸術文化ホール
	29	市民児協第 4 回正副会長・部会長会議	5 名	市社協
	29	市民児協第 2 回理事会	13 名	市社協
11				
12	1	一斉改選	全委員	市原市市民会館
	4	第 1 回相談支援部会	21 名	サンプラザ市原
	4	第 3 回主任児童委員部会	16 名	サンプラザ市原
	4	市民児協第 3 回理事会	14 名	サンプラザ市原
	15	県民児協第 2 回新任民生委員児童委員研修会	110 名	君津市民文化ホール
1	21	新任民生委員児童委員研修会	134 名	市原市市民会館
	28	県民児協第 4 回理事会	1 名	千葉県社会福祉センター
2	16	市民児協第 4 回主任児童委員部会	22 名	市社協
	20	市民児協第 2 回相談支援部会	24 名	市社協
	27	単位民児協会長研修会	10 名	千葉県教育会館
3	5	相談技法研修会	10 名	千葉県教育会館
	18	主任児童委員研修会	20 名	千葉市民会館
	30	市民児協第 5 回正副・部会長会議	5 名	市社協

成果	相談支援体制の推進強化に向けて取り組んできた 3 ヶ年の最終年度として、2 つの専門部会(主任児童委員部会、地域福祉推進部会)が連携して作成した事例集の発行をはじめ、チーム・班体制の構築や取組の成果、学童保育施設をはじめとした子どもの居場所との連携などについて、全体研修会において発表し、全委員へ 3 ヶ年の取り組み成果を共有することができた。また、委員の一斉改選を機に相談支援活動の充実を図るため、これまでの地域福祉推進部会を廃止し、新たに相談支援部会を設置した。
課題・方向性	事例検討を中心とした部会運営を通じて相談対応力の向上を図るとともに、地区におけるチーム・班体制の充実を進め、組織的な相談支援体制の強化を図っていく。また、一斉改選を機に委員数が減少していることから、委員一人ひとりの負担軽減を図るため関係機関との連携強化を進めるとともに、担い手確保に向けた取組について検討する。

③安心生活見守り支援事業

一人暮らし高齢者や障がい者世帯、高齢者のみ世帯等の社会的な孤立を防ぐために、定期的な見守り・声掛けを行う安心生活見守り支援事業を実施した。

(ア) 実施状況

地区	見守り希望者数	訪問員数	延訪問回数
辰巳台	30 名	53 名	391 回
市津	21 名	55 名	261 回
ちはら台	17 名	21 名	479 回
国分寺台	29 名	39 名	391 回
姉崎	128 名	151 名	1,701 回
有秋	18 名	29 名	216 回
千種	7 名	7 名	87 回
三和	112 名	101 名	1,839 回
南総	135 名	139 名	1,938 回
加茂	50 名	92 名	1,111 回
五井	112 名	146 名	1,476 回
市原	267 名	134 名	2,744 回

年度	実施数	見守り希望者数	安心訪問員数	延訪問回数
R7 年度	41 ネットワーク (43 小学校区)	926 名	967 名	12,634 回
R6 年度	41 ネットワーク (43 小学校区)	998 名	997 名	16,059 回
増減	－	△72 名	△30 名	△3,425 回

成果	定期的に一人暮らし高齢者、高齢者世帯等を対象に、安心訪問員による声掛け・安否確認、防犯情報の提供等を通じた見守り訪問活動を実施し、対象者に安心感をもたらすとともに、孤立防止に向けた一助を担うことができた。
課題・方向性	支援が必要な方が支援につながるよう地域の関係者と連携した対象者の掘り起しの強化とともに、引き続き、訪問員の役割・視点の理解・浸透を図るために、各地域でのフォローアップ研修や本会主催の交流会を実施し取組の充実に努めていく。

(イ) 安心訪問員交流会

安心生活見守り支援事業関係者が高齢者との関わり方やコミュニケーションスキルを学ぶとともに、訪問員同心交流を通じ、今後の見守り活動の充実につなげることを目的に下記の通り実施した。

期日	1 月 20 日 (火)
場所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室
参加者	安心生活見守り支援事業安心訪問員、地域包括支援センター職員 (82 名)
内容	【講演】 市社協「シニアサインについて」 講師：ボランティアグループ点字と手話の勉強会「てとてん」代表 永原美弥子氏 【情報交換】 「日ごろの見守り活動について語ろう」

④地域福祉支援事業

歳末たすけあい運動の財源を活用し、歳末の時期に地区社協や小域福祉ネットワークが行う先駆的な地域福祉活動の普及促進に向けた助成を行った。

内容	事業実績(R7 度)	R6 年度	前年度比較
地域福祉支援事業	導入型：40,000 円（1 団体） 交流型：1,620,000 円（27 団体） 個別（訪問）支援型：882,657 円（15 団体） 合 計：2,542,657 円（43 団体）	2,275,000 円	267,657 円

成果	身近な地域における住民同士の交流、災害、個別支援型の取り組みが展開され、前年比 3 団体増の 43 団体へ助成金を交付し事業の活性化につながった。
課題・方向性	全地区での実施に向け地区社協・小域福祉ネットワークの関係者へ理解促進に努めるとともに、実践した取組が日頃の地域福祉活動として発展的に展開されるよう、企画の段階から積極的に地区担当職員が関わり助言等を通じた支援を行う。

⑤地域主体の子どもの見守り強化事業

ちはら台地区、千種地区、五井京葉地区において未就学児を養育している家庭に対し、地域の協力者による戸別訪問などを通じ、子どもや家庭の状況を地域でゆるやかに見守る活動を実施した。

地区	延活動者数	訪問家庭数	延訪問回数
ちはら台地区	29 名	16 世帯	82 回
千種地区	10 名	12 世帯	54 回
五井地区 (京葉地域)	15 名	4 世帯	26 回

成果	新たに五井（京葉地域）においても取組が開始され、行政から提供された情報をもとに対象世帯への戸別訪問を実施し、未就学児の状況確認を行った。あわせて、地域イベントやサロン活動等の情報提供を行うことで、地域と子育て世帯との交流の機会が生まれ、地域全体で主体的かつ継続的に子どもを見守る体制を推進した。
課題・方向性	子育て世帯が孤立感や孤独感を抱くことのないよう取組を継続するとともに、地域全体で子どもを緩やかに見守る体制の構築を図りながら、事業の方向性や進め方について検討を進めていく必要がある。

①生活支援体制整備事業の推進

＜第2層協議体・SC活動実績＞

成果	第2層生活支援コーディネーター（SC）および協議体関係者により把握された地域の困りごとを契機として、市原地区および千種地区において、高齢者等の生活上の困りごとに対応する「日常生活支援事業」の創設に向けた仕組みづくりの検討を開始することができた。 また、移動販売では、マックスバリュ関東株式会社、千葉薬品株式会社、イオンリテール株式会社と連携し、市内での導入を進め取り組みの拡充を図ることができた。 さらに、複数の地区において、困りごとを抱える住民と地域資源をつなぐ「資源便利帳」や、人と活動を結び付ける「ボランティアナビ」が完成し、必要な情報を必要な方へ届けるためのマッチング体制の強化を図った。
課題・方向性	地域と連携した住民主体の支え合いの仕組みづくりを推進していくために、第1層、第2層SCの定期的な情報交換や、関係者向けのフォローアップ研修において成功事例などを紹介しながら、全市的な底上げに努める。また、協議体活動の更なる活性化に向け、法人や企業等の多様な主体との連携を強化していく必要がある。 行政と調整しながら、市域の第1層協議体で課題解決を図る体制の構築を働き掛けていく。

②各種資金貸付事業

(ア) 生活福祉資金貸付事業

市内に居住する低所得世帯などで、経済的な課題の改善を図るために必要な生活資金などを貸付け、その後の安定した生活が営めるよう、民生委員・児童委員をはじめ各専門機関等と連携した援助指導に努めた。

年度	資金種類	相談件数	申請件数	貸付	
				件数	金額
R7 年度	総合支援資金	3 件	0 件	0 件	0 円
	福祉費	21 件	7 件	7 件	2,289,500 円
	緊急小口資金	93 件	67 件	58 件	3,381,000 円
	教育支援資金	30 件	20 件	20 件	15,129,200 円
	不動産担保型生活資金	3 件	0 件	0 件	0 円
	臨時特例つなぎ資金	0 件	0 件	0 件	0 円
	合計	150 件	94 件	85 件	20,799,700 円
R6 年度	総合支援資金	9 件	1 件	1 件	300,000 円
	福祉費	37 件	9 件	8 件	3,973,400 円
	緊急小口資金	132 件	89 件	83 件	4,115,500 円
	教育支援資金	40 件	30 件	30 件	19,487,500 円
	不動産担保型生活資金	0 件	0 件	0 件	0 円
	臨時特例つなぎ資金	1 件	1 件	0 件	0 円
	合計	219 件	130 件	122 件	27,876,400 円
前年度比較増減		△69 件	△36 件	△37 件	△7,076,700 円

(イ) 療養資金貸付事業（市受託事業）

高額な療養費の支払いが困難な世帯に対し、療養費の支払いに必要な資金の貸付を実施した。

年度	相談件数	申請		貸付	
		件数	金額	件数	金額
R7 年度	3 件	0 件	0 円	0 件	0 円
R6 年度	3 件	3 件	276,000 円	3 件	276,000 円
増減	0 件	△3 件	△276,000 円	△3 件	△276,000 円

(ウ) 福祉資金貸付事業（自主事業）

市内に居住する低所得世帯を対象に、生活の安定や自立更生に向けた必要な助言指導を行うとともに、生活のつなぎ及び応急的な生活資金の貸付を実施した。

年度	資金種類	相談件数	申請件数	貸付	
				件数	金額
R7 年度	応急生活費	3 件	0 件	0 件	0 円
R6 年度	応急生活費	7 件	6 件	5 件	62,000 円
前年度比較増減		△4 件	△6 件	△5 件	△62,000 円

(エ) 応急法外援護

低所得で不測の事態に陥り、緊急な法外援護が必要な方に対し少額の資金を交付した。

R7 年度		R6 年度		前年度比較増減	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
11 件	23,730 円	32 件	81,930 円	△21 件	△58,200 円

成 果	経済的な課題を抱える世帯に対し、家計の改善や安定した生活に向けた必要な資金の貸付を行うことで、世帯の自立に向けた支援を実施した。また、本会が実施している「いちほらフードネットワーク」と連携した現物給付により、金銭のみならず生活の状況に応じた支援を行うことができた。
課題・方向性	複合的な課題を抱える世帯に対し、一時的な（応急的）支援にならないために、課題の根本的な解決に向け、初期相談から主訴を見極め、必要に応じて適切な専門機関と連携した支援の強化を図る必要がある。

(オ) 特例貸付債権管理事業

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例措置である緊急小口資金等特例貸付を利用した借受人に対し、市内の専門機関や地域関係者と連携し、借受人が自立した生活を営むことができるよう個別の状況に応じた償還指導や生活再建に向けたフォローアップ支援を行った。

種別		R7 年度	R6 年度	内容
相談受付	受電相談	448 件	181 件	借受人から受電し、受付した相談件数
	来局相談	84 件	73 件	借受人が来局し、受付した相談件数
アウトリーチ	架電相談	412 件	469 件	市社協から架電し、対応した相談件数
	訪問回数	499 件	454 件	借受人宅を訪問した回数
	訪問相談	47 件	77 件	借受人宅を訪問し、対応した相談件数

※生活状況の実態把握を通じ、償還方法の検討及び必要な支援に関する情報提供を行った。

成 果	償還が滞る借受人を中心に、積極的に架電や訪問等によるアウトリーチを行い、個々の生活状況に応じた償還方法の再考や家計・生活改善に向けた助言、必要な支援へのつなぎなど、フォローアップに係る支援を行った。
課題・方向性	居所不明などアプローチが困難な借受人に対し県社協と連携した所在確認を進めるとともに、継続的な架電や訪問等によるアウトリーチを実施し、課題を抱える借受人への適切な支援や各関係機関へのつなぎを行うなどフォローアップ支援の更なる強化を図る。

③日常生活支援事業

公的制度や民間サービスで補えない住民の日常生活上の生活課題を解決するために、住民相互による支え合い・助け合い活動を行った。

(ア) 住民参加型在宅福祉サービス

日常生活上のちょっとした困りごとの解決に取り組む住民相互の生活支援サービス等の個別支援活動を行った。

地 区	活動件数	延利用者数	延支援者数	内 容 等
辰巳台	1,165 件	1,165 名	1,305 名	地区内に居住する高齢者や障がい者、その他日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、日常生活支援、子育て支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい辰巳ねこの手】
市津	137 件	137 名	224 名	地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：市津まごの手】
ちはら台	178 件	178 名	179 名	地区内に居住する日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、家事支援、付添支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい隊】
国分寺台	4 件	4 名	10 名	地区内に居住する高齢者世帯や生活困窮者等で、各関係団体より支援依頼があった人に対して、屋内外の有償サービスを提供。

姉崎	115 件	115 名	134 名	地区内に居住する高齢者世帯や生活困窮者等で、各関係団体より支援依頼があった人に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：姉崎チョコっとサービス】
有秋	362 件	362 名	665 名	地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。今後地区内に活動を広めていく。 【名称：くらしのささえあい】
三和	332 件	332 名	412 名	地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい三和】
南総	19 件	19 名	46 名	地区内に居住する高齢者世帯や生活困窮者等で、各関係団体より支援依頼があった人に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。【名城：ささえあい南総】
加茂	24 件	24 名	39 名	地区内（白鳥地区）に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯に対して、屋外作業等の有償サービスを提供。
五井	6 件	6 件	14 名	地区内に居住する高齢者世帯や生活困窮者等で、各関係団体より支援依頼があった人に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。

年度	実施地区	活動件数	延利用者数	延支援者数
R7 年度	10 地区	2,342 件	2,342 名	3,028 名
R6 年度	9 地区	2,227 件	2,227 名	3,350 名
増減	1 地区	115 件	115 名	△322 名

（イ）事業化・活性化推進サービス

住民参加型在宅福祉サービスにつなげるための取り組みとして部分的に支援する活動を行った。

地区	開設日数	延利用者数	延支援者数	内容等
市津	24 日	542 名	140 名	65歳以上の一人暮らし高齢者、65歳以上で構成される世帯、自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（清流園、グリーンホーム）の協力を得て月2回買い物ツアーを実施。
有秋	36 日	374 名	60 名	65歳以上の一人暮らし高齢者、障がい者で自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（グランモア和光苑）の協力を得て月1回買い物ツアーを実施。また、泉台地域では住民ニーズを踏まえ刃物研ぎ支援を実施。
三和	55 日	412 名	132 名	光風台、市西、海上地域で70歳以上の高齢者のみの世帯を対象として、社会福祉施設（向日葵、あじさい苑、グリーンライフ・ネクステ）の協力を得て買い物ツアーを実施。
姉崎	12 日	134 名	34 名	青葉台地域で、自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（和気あいあい）の協力を得て月1回買い物ツアーを実施。

年度	実施地区	開設日数	延利用者数	延支援者数
R7 年度	4 地区	127 日	1,462 名	366 名
R6 年度	5 地区	168 日	1,719 名	444 名
増減	△1 地区	△41 日	△257 名	△78 名

(ウ) 日常生活支援事業交流会

日常生活支援事業実践者同士の交流や情報交換の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、未実施地区における取組の契機になることを目的に下記の通り実施した。

期日	7月31日(木)
場所	姉崎保健福祉センター 体育室
参加者	日常生活支援事業コーディネーター、地区社会福祉協議会関係者、住民参加型在宅福祉サービスに関心のある方(55名)
内容	第1部 講話及び演習 講話 「住民参加型在宅福祉サービスについて」 演習 「助け合い体験ゲーム」 講師 公益財団法人さわやか福祉財団 インストラクター 國生 美南子 氏 第2部 情報交換会 「日常生活支援事業について語り合おう」
成果	住民参加型在宅福祉サービスでは、新たに五井地区で地域ニーズ等を踏まえた事業が開始され、日常的な困りごとを抱える市民をより広い範囲で支えることができる体制を構築した。
課題・方向性	引き続き住民参加型在宅福祉サービスの拡充を図るとともに、継続的・安定的な運営を行うための市原市補助金(住民主体訪問型サービス補助金)の活用を促進していく。 また、住民参加型在宅福祉サービスで補えない困りごとの解決に向け、新たに加えたい取り組みを試行的に展開する「事業化・活性化サービス」の拡充に努める。

④ファミリー・サポート・センター事業

公的な子育てサービスで対応できない短時間の預かり等、住民相互(協会員、利用会員)による援助活動を通じた子育て環境(仕事と育児の両立)を支援するため、いちほファミリー・サポート・センター事業を実施した。

年度	相談件数(延数)	利用会員登録者数	協会員登録者数	両方会員登録者数
R7年度	84件	297名	76名	27名
R6年度	71件	279名	69名	27名
増減	13件	18名	7名	0名

【活動状況】

(令和8年3月31日現在)

活動内容 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R7年度	R6年度	増減
保育所・幼稚園の登園前の預かり	5	6	7	4	2	4	10	6	6	5	2	3	60件	51件	9件
保育所・幼稚園の送り	5	6	7	4	2	4	10	6	6	5	2	3	60件	95件	△35件
保育所・幼稚園の迎え	2	1	3	1	5	3	3	3	3	3	3	5	35件	8件	27件
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2件	51件	△49件
学童の放課後の預かり	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3件	0件	3件
放課後児童クラブの迎え	3	3	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	12件	17件	△5件
放課後児童クラブ終了後の預かり	3	3	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	12件	14件	△2件
子どもの習い事等の場合の援助	7	11	8	5	0	6	6	5	3	4	4	5	64件	140件	△76件
保育所・学校等休み時の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	3件	△3件
保育所等入所前の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1件	5件	△4件
保護者等の冠婚葬祭による外出、他の子どもの学校行事の場合の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	4件	△4件

保護者等の外出の場合の援助	8	3	4	6	2	9	5	4	2	5	1	1	50 件	22 件	28 件
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件
小学校の送り	0	4	0	0	0	0	2	9	0	0	0	0	15 件	21 件	△6 件
小学校の迎え	1	2	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	7 件	0 件	7 件
協力会員宅以外の場所での援助	2	2	0	1	5	3	3	3	5	5	11	16	56 件	0 件	56 件
児童クラブ前の預かり	0	1	3	3	3	3	5	6	3	4	5	5	41 件	0 件	41 件
児童クラブの送り	0	1	3	3	3	3	5	6	3	4	5	5	41 件	0 件	41 件
その他	0	2	0	2	0	0	2	0	0	2	1	0	9 件	154 件	△145 件
合計	38	47	40	30	26	39	51	48	31	39	36	45	468 件	585 件	△117 件

成果	複雑な家庭の事情を抱える利用ケースに対応するため、市担当課と調整のもと可能な範囲で柔軟な援助活動を実施した。併せて、利用促進のための広報活動や協力会員の確保に向けて、市民大学での講義や市担当課と連携した養成講座を継続して実施した。千葉市・市原市・四街道市の3市連携制度を活用した広域的な支援や、公共の場などを活用した預かり支援も増加した。また、利用世帯の状況に応じて出産前後家事等サポート事業との連携により、切れ目のない支援を行うことができた。
課題・方向性	協力会員数は地区によって偏りがあり、利用会員の支援ニーズに対応できないケースもある。引き続き SNS や広報用動画の活用や、市担当課と連携しながら幅広い年齢層への事業周知と協力会員の確保に努める。また、複雑な支援ケースに対応するため、市担当課と定期的な連絡調整を図っていく必要がある。

⑤出産前後家事等サポート事業

妊娠中や出産前後の不安定な時期に、家事または育児支援等を必要とする家庭に、ホームヘルパーを派遣し、子育てしやすい環境づくりに向けたコーディネート業務を展開した。

年度	相談件数（延数）	利用者数（実人数）	利用回数（延数）	利用時間（延時間）
R7 年度	66 件	223 名	512 回	988 時間
R6 年度	55 件	176 名	526 回	1024 時間
増減	11 件	47 名	△14 回	△36 時間

【活動状況】

（令和8年3月31日現在）

活動内容		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R7 年度	R6 年度	増減
家事援助	食事の準備・後片付け		43	44	38	35	24	23	22	29	42	28	30	17	375 件	359 件	16 件
	衣類の洗濯・補修		8	6	5	6	4	5	6	9	10	1	4	0	64 件	113 件	△49 件
	居室等の掃除・整理整頓		20	15	22	20	17	15	17	23	33	18	21	14	235 件	265 件	△30 件
	生活必需品の買い物		3	2	1	1	0	2	1	0	1	0	0	1	12 件	18 件	△6 件
	関係機関との連絡		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1 件	0 件	1 件
	その他必要な家事援助		0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	7 件	1 件	6 件
	小 計		74	67	66	62	45	45	46	61	88	49	57	34	694 件	756 件	△62 件
育児援助	授乳		3	0	0	2	0	2	5	3	1	2	0	0	18 件	53 件	△35 件
	おむつ交換		1	0	1	3	4	9	9	6	5	4	1	1	44 件	42 件	2 件
	沐浴介助		0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3	5	11 件	19 件	△8 件
	適切な育児環境の整備		0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2 件	28 件	△26 件
	その他必要な育児援助等		4	8	2	13	6	22	17	14	19	9	15	13	142 件	85 件	57 件
	小計		8	8	3	18	10	33	33	24	25	17	19	19	217 件	227 件	△10 件
合計			82	75	69	80	55	78	79	85	113	66	76	53	911 件	983 件	△72 件

成果	市担当課と連携し新規協力事業所を確保できたことで、順調に支援のマッチングを行えた。また、電子申請の導入により利用手続き負担が軽減され、迅速な支援の提供につながった。利用世帯の状況に応じてファミリー・サポート・センター事業との連携により、切れ目のない支援を行うことができた。
課題・方向性	より多くの支援ニーズに対応でき、市内全域で同水準の支援が行えるよう、市担当課と連携した協力事業所の確保に努めるとともに、引き続き、必要な世帯が支援につながるよう地域の子育て支援関係者や関係機関との関係づくりを促進していく。

⑥送迎ボランティアサービス事業

既存の交通手段での移動が困難な高齢者及び障がい者（児）等に対し、住民参加の相互援助による外出支援を行ない、社会参加の促進と地域福祉の推進を図った。

（ア）実施状況

- ・利用者 183 世帯 193 名（令和 8 年 3 月 31 現在登録者）
- ・協力ボランティア 36 名（ ” ” ）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R7 年度	R6 年度	増減
延利用件数	28	27	31	28	31	32	34	27	35	27	26	25	351 件	310 件	41 件
目的別利用件数	福祉施設利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件
	公共機関利用	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1 件	2 件	△1 件
	行事への参加	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件
	通院	28	27	31	28	31	32	34	27	35	26	26	350 件	308 件	42 件
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件

（イ）送迎ボランティア養成講座

送迎ボランティアサービス事業協力者を育成することを目的として実施。

期 日	11 月 7 日（金）
場 所	市原市社会福祉協議会 3 階会議室
参加者	一般市民 10 名
内 容	【説明】送迎ボランティアサービス事業について 説明：市原市社会福祉協議会 職員 【講義】安全運転について 講師：千葉県安全運転管理協会 遠藤 彰 氏 【体験談及び交流】送迎ボランティア協力者との交流

（ウ）送迎ボランティア研修会

送迎ボランティアサービス事業を行うにあたり、協力者の活動をよりスムーズに行えるよう資質向上を目指すことを目的として実施。

期 日	3 月 3 日（火）
場 所	市原市社会福祉協議会 3 階会議室
参加者	送迎ボランティアサービス事業協力会員 14 名
内 容	【講義】「いつまでも健康に運転を続けるために」 講師：結家訪問看護ステーション 理学療法士 竹原 伊余 氏 【情報交換】「協力者間の交流会」

成 果	送迎ボランティア養成講座では、新規協力者 3 名の確保に繋がり、事業全体で 350 件の支援を実施することが出来た。また、研修会では、理学療法士から身体の状態の把握や補償運転の重要性を学び、安全かつ長期的に活動を継続するための知識を習得する機会となった。
課題・方向性	令和 7 年度の送迎ボランティア養成講座は、市域での 1 回のみ開催となった。新規協力者の確保に向け、車両を配置する地区を中心に、地区社協や小域福祉ネットワーク等と連携した養成講座の開催などを検討していく。また、協力会員が安心・安全に活動できるよう、必要な知識を身に付けられる研修、養成講座を実施していく。

⑦福祉カー貸出事業

心身障がい者（児）、高齢者等の社会参加の促進と福祉の向上を図るため、障がい者、高齢者等及びその家族並びに社会福祉施設等に対し、リフト付きワゴン車の貸出を実施した。

（ア）利用件数

項 目	月	利用 状況	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R7 年度	R6 年度	増減
心身障がい者（児） 及びその家族	件数		6	6	8	4	3	3	4	0	3	1	1	3	42 件	61 件	△19 件
	日数		7	6	9	5	3	5	6	0	3	3	4	9	60 日	93 日	△33 件
高齢者及びその家族	件数		0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	4 件	1 件	3 件
	日数		0	2	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	7 日	1 日	6 日
社会福祉団体及び 社会福祉施設	件数		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 件	1 件	0 件
	日数		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 日	1 日	0 日
社会福祉 ボランティア	件数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件
	日数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 日
合 計	件数		6	9	8	4	3	3	4	1	3	1	1	4	47 件	63 件	△16 件
	日数		7	9	9	5	3	5	6	4	3	3	4	10	68 日	95 日	△27 日

（イ）利用内容

項 目	内 容	利用 状況	旅行等	買物等	通院等	行事等	その他	合 計
心身障がい者（児）及びその家族	件数		5 件	5 件	32 件	0 件	0 件	42 件
	日数		14 日	11 日	35 日	0 日	0 日	60 日
高齢者及びその家族	件数		2 件	0 件	2 件	0 件	0 件	4 件
	日数		5 日	0 日	2 日	0 日	0 日	7 日
社会福祉団体及び社会福祉施設	件数		0 件	0 件	0 件	1 件	0 件	1 件
	日数		0 日	0 日	0 日	1 日	0 日	1 日
社会福祉ボランティア	件数		0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
	日数		0 日	0 日	0 日	0 日	0 日	0 日
合 計	件数		7 件	5 件	34 件	1 件	0 件	47 件
	日数		19 日	11 日	37 日	1 日	0 日	68 日

成 果	市担当課と連携し、利用促進に向けた調整を行うとともに、障がい者、高齢者などの外出を後押しする機会につながった。
課題・方向性	引き続き、利用促進に向けた広報活動に努めるとともに、老朽化する車両への対応について市担当課と調整していく。

⑧居宅介護支援事業所の運営

介護保険で要介護と認定された高齢者等に対し、サービス提供事業者、介護保険施設、関係行政機関等と連携を図りながらケアプランを作成し、自立した生活を支援した。

【ケアプラン作成状況】

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R7 度利用者	107	111	108	107	105	104	102	103	106	101	98	98	1,250 名	104 名
R6 度利用者	107	107	111	108	111	113	113	116	112	110	110	108	1,326 名	110 名
増 減	0	4	△3	△1	△6	△9	△11	△13	△6	△9	△12	△10	△76 名	△6 名

(ア) 介護予防給付ケアマネジメント業務（受託事業）

市原市内の地域包括支援センターから委託を受け、介護保険で要支援と認定された高齢者等に対し、サービス提供事業者、介護保険施設、関係行政機関等と連携を図りながらケアプランを作成し、自立した生活を支援した。

【ケアプラン作成状況】

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R7 度利用者	42	41	43	46	44	42	42	40	40	38	40	40	498 名	41 名
R6 度利用者	37	36	39	44	42	43	42	42	42	41	42	42	492 名	41 名
増 減	5	5	4	2	2	△1	0	△2	△2	△3	△2	△2	6 名	0 名

(イ) 要介護認定調査業務（受託業務）

市原市及び他市町村からの委託を受け、介護保険要介護・要支援認定に係る調査業務を行った。

【認定調査状況】

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R7 度利用者	10	14	13	6	8	16	14	8	5	8	11	11	124 名	10 名
R6 度利用者	7	10	10	8	9	7	11	9	8	5	10	12	106 名	9 名
増 減	3	4	3	△2	△1	9	3	△1	△3	3	1	△1	18 名	1 名

成 果	ケアマネジメント業務において利用者の状況を的確に把握し、適切なケアプランを作成した。また、利用者の身体状況などに応じてサービス提供事業者と支援内容を柔軟に調整し、課題に対して迅速に対応したことで、生活の質の向上に寄与した。
課題・方向性	引き続き、利用者の自立支援に努めていくために、市担当課や地域包括支援センター、専門機関に限らず、複雑・複合的な課題に対応できるよう、本会が運営する事業所として地域福祉分野との連携をより一層強化していく必要がある。 また、安定的、継続的な事業所運営に向けた人材確保と育成、ケアマネジメント業務のデジタル化に向けてケアプランデータの連携や AI 技術の活用についても検討していく。

2. 地域福祉力の向上

(1) 地区行動計画の推進

①地区行動計画推進委員会の開催

社会的な孤独・孤立問題など、複雑・多様化する地域生活課題に対応するため、「市原市地域共生社会推進プラン」（行政計画）が改定されることに伴い「第6次市原市地域福祉活動計画」を改定することから、「第2次地区行動計画」について、活動計画と連携・連動を図るため見直しを行った。

地区名	名 称	設置日	R7 年度開催回数
姉崎地区	姉崎地区福祉行動計画推進委員会	平成 31 年 1 月 22 日	4 回
五井地区	五井地区行動計画推進委員会	平成 30 年 12 月 12 日	3 回

市原地区	市原地区行動計画推進委員会 (市原地区第2層協議体)	平成31年3月14日	4回
辰巳台地区	辰巳台地区行動計画推進委員会 (辰巳台地区第2層協議体)	平成30年12月8日	3回
市津地区	市津地区地域福祉行動計画推進委員会 (市津地区第2層協議体)	平成30年11月19日	3回
三和地区	三和地区行動計画推進委員会	平成31年2月19日	4回
南総地区	南総地区行動計画推進委員会 (南総地区第2層協議体)	平成30年11月25日	4回
加茂地区	加茂地区社協役員会・理事会 (地区行動計画推進委員会機能を担う)	平成31年2月24日	4回
有秋地区	有秋地区行動計画推進委員会 (有秋地区第2層協議体)	平成30年4月20日	4回
ちはら台地区	ちはら台地区福祉行動計画推進委員会	平成30年9月30日	4回
国分寺台地区	支え合いのまちづくり計画推進委員会 (国分寺台地区第2層協議体)	平成31年1月20日	3回
千種地区	千種地区行動計画推進委員会	令和7年6月30日	4回

※「第2層協議体」と機能が混在していることもあり、地区によっては委員を兼務し、両会議を一体的に開催、運営した。(姉崎、五井、三和、加茂、ちはら台、千種地区、は推進委員会を単独で開催)

成果	千種地区においては、新たに地区行動計画策定委員会が設置され、第1次地区行動計画の策定作業が進められた。 また、その他の11地区においては、活動計画との連携・連動を図るため、「第2次地区行動計画」の改定作業が進められ、3月末までに全地区で最終案について承認を得ることができた。これにより、各地区における地域福祉推進の方向性が整理されるとともに、今後の具体的な取組を展開していくための基盤整備が図ることができた。
課題・方向性	次期計画では、現計画で推進する「地域共生社会の実現」の考え方を踏襲し、新たな「孤独・孤立対策」の考え方を取り入れ、新たな地域生活課題への対応方を盛り込みながら、着実な施策や事業を具現化するため、本会地区担当職員による継続的なサポートに努める。

(2) 社会福祉法人の公益的な取組との連携

市内の社会福祉法人との連携づくりとして、中域福祉圏ごとに設置している「地区行動推進委員会」や「第2層協議体」への参画を働き掛け、顔の見える関係づくりや地域生活課題の共有を図った

参画法人数	会議への参画数
16 法人	49 回

地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり【共生】

1. 地域で活躍する人材の育成

(1) 福祉教育の推進

学校や団体等と連携し、次世代の福祉マインドの醸成や生涯学習のための福祉教育（ボランティア学習）の推進を図るため以下の講座を実施した。

① 出前講座

市民に対する福祉教育(生涯学習)の一環とし、市内の学校・機関・企業等からの要請に応じて講座を開催した。

年度	学校関係	公共機関等	福祉施設、団体等	合計
R7 年度	14 回	2 回	4 回	20 回
R6 年度	6 回	2 回	3 回	11 回
増減	8 回	0 回	1 回	9 回

成果	依頼元と事前調整を行うことで、目的や年齢層に応じた出前講座を企画し、運営協力組織、障がい分野の当事者団体、地域福祉関係者、企業からのサポートボランティアなど多様な主体と連携しながら実施した。また、今年度は福祉の専門的な知識を有する 2 つの社会福祉法人（高齢者・障がい者分野）の協力による 2 件の福祉教育出前講座（体験講座）を実施したことで、講座内容の充実を図る契機となった。
課題・方向性	福祉教育出前講座の充実に向け、市教育委員会を通じた学校等への周知を図るとともに、地域関係者への働き掛けや社会福祉法人へのアプローチを行い、連携・協働した講座の企画実施に努めていきたい。また、引き続き、地域福祉関係者、企業との連携を図りながら講座をサポートするボランティアの担い手確保方策を検討する。

(2) ボランティア活動の推進

① ボランティア活動に関する相談・コーディネート

(ア) ボランティア相談受付、コーディネート

ボランティア活動を行う（行われている）市民、施設・団体などからの活動相談、活動紹介、派遣依頼などのコーディネートを行った。

相談内容	R7 年度	R6 年度	増減
活動希望、活動中の問題に関すること	48 件	57 件	△9 件
派遣依頼に関すること	96 件	113 件	△17 件
その他（不満、出前講座依頼、事業についての問合せ等）	62 件	60 件	2 件
合 計	206 件	230 件	△24 件

(イ) 登録者（団体）の活動実績

ボランティアグループ				個人ボランティア			
活動回数 延参加人数	R7 年度	R6 年度	増減	延参加人数	R7 年度	R6 年度	増減
	回 名	10,852 回 50,527 名	回 名		名	2,874 名	名
災害ボランティア				依頼に対する活動状況			
活動回数	R7 年度	R6 年度	増減	件 数 延参加人数	R7 年度	R6 年度	増減
	199 回	164 回	35 回		34 件 158 名	36 件 167 名	△2 件 △9 名

成果	ボランティア活動の希望者及び既存の活動者からの相談などに応じ、地域での福祉活動や社会貢献活動へのマッチング・派遣調整、活動の活性化に向けた助言等を行った。
課題・方向性	高齢化等による影響から、活動の停滞が続く登録グループも見受けられるため、本会の地区担当職員と連携し、身近な地域で活動できる機会の確保に努めていく。

②ボランティア活動に関する情報提供

社協ホームページや SNS、ボランティア情報ステーション（市原市社会福祉協議会、市原市姉崎保健福祉センター、市原市三和保健福祉センター、市原市南部保健福祉センター、老人福祉センターに設置）等で市内・外のボランティア活動情報等について、市民へ情報提供を行った。

成果	ホームページや SNS、社協だより、市原市情報配信メール等を活用し、広く市民に講座等の最新情報を積極的に提供できた。
課題・方向性	SNS を活用し、活動に係るタイムリーな情報発信を積極的に行っていくとともに、事業毎に開催報告を行い、次の参加に繋がる仕組みづくりに努める。

③ボランティア活動への支援

ボランティア活動の継続性の向上や活性化のため以下の活動支援を行った。

（ア）ボランティア登録・ボランティア保険への加入

ボランティアグループ

年度	登録団体数	登録者数
R7 年度	150 団体	3,398 名
R6 年度	150 団体	3,500 名
増 減	0 団体	△102 名

個人ボランティア

年度	登録者数
R7 年度	163 名
R6 年度	156 名
増 減	7 名

災害ボランティア

年度	登録者数
R7 年度	146 名
R6 年度	119 名
増 減	27 名

登録者以外の保険手続き

年度	団体	個人
R7 年度	108 件	6 件
R6 年度	91 件	15 件
増 減	17 件	△9 件

※窓口にてボランティア活動保険・ボランティア行事用保険・福祉サービス総合補償・送迎サービス補償の加入手続きを行った件数

（イ）ボランティア連絡協議会の事務局

活動者間の横のつながりや連携づくりの機会を提供するため、市原市ボランティア連絡協議会の事務局を担い協議会活動の支援を行った。

事業名	期日	会場	主な内容
総会	5 月 23 日	市原市姉崎保健福祉センター	- 令和 6 年度事業報告(案)について - 令和 6 年度決算報告(案)・監査報告について - 令和 7 年度事業計画(案)について - 令和 7 年度予算(案)について
役員・E S 委員親睦会	6 月 12 日	竹・いろりの里	会員相互の親睦
会員交流会	11 月 20 日	市原市市民会館	【講義】「認知症に備えよう」 講師：神戸大学客員教授 安田 清 氏
バス研修	2 月 19 日	伝右衛門製作所 館山ジビエセンター 渚の駅たてやま	会員相互の親睦
会報発行	年 2 回		「いちほらV連協だより」第 39 号（6 月）・第 40 号（12 月）広報活動
V 連協運営事業			市原市 V 連協の運営に関すること ・役員会 ・監査 ・その他打合せ

成果	災害ボランティアに対する市民の関心が高まり、特に現役世代からの参加が増加した。ボランティア連絡協議会では積極的な周知活動を行った結果、登録団体数が増加した。また、事務局として定例会議等へ職員が参加し、協議会活動の活性化に向けた支援を行った。
課題・方向性	活動者の高齢化や担い手不足等により活動の継続が困難な登録グループも見受けられ、全体として登録数が減少傾向にある。活動機会の確保に向け、引き続き、情報提供を積極的に行うとともに、本会地区担当職員と連携し、新たな活動場所の確保及び相談・コーディネート強化を図る。 また、ボランティア連絡協議会においては、活動の機会を増やし、会員同士の交流を通じて相互理解を深め、新たな役員の担い手の発掘に努める。

④ボランティアの養成・普及・交流

地域が抱える課題について、様々な機会を捉えて情報の収集を行うとともに、社会や地域ニーズに応じた人材の育成を図るための講座等を開催した。

(ア) 傾聴ボランティア養成講座

相手の心に寄り添って話を聴くことの大切さや、心と耳を傾けて話を聴くために必要な知識と技術を学び、それを活かし活動できる傾聴ボランティアの養成を図ることを目的として実施した。

(協力：傾聴の会「ひだまり」・傾聴の友「やすらぎ」・傾聴の会「こだま」)

期日	5月11日(日)、18日(日)、25日(日)〔全3回〕
場所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
参加者	一般市民 37名×3日間
内容	【講義及び演習】 傾聴について 講師：公認心理師 田邊 昭雄 氏 【説明】 個人宅訪問型傾聴ボランティア活動基礎研修 説明：市原市社会福祉協議会職員 【活動紹介】 発表者：傾聴の会「ひだまり」・傾聴の友「やすらぎ」・傾聴の会「こだま」

(イ) 傾聴ボランティアフォローアップ講座

傾聴ボランティア活動に関する知識と技術を再確認するとともに、高齢者施設や個人宅における傾聴の技法について共有を図ることを目的として実施した。

期日	2月15日(日)
場所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
参加者	傾聴ボランティアグループ 30名
内容	【講義・演習】 傾聴について 講師：NPO法人スピリッツ 理事長 下大菌 麻衣 氏 【情報交換】 傾聴の会「ひだまり」・傾聴の友「やすらぎ」・傾聴の会「こだま」、 傾聴の会「ほほえみグループ」

成果	傾聴ボランティア養成講座では、新たに19名が傾聴活動を行うグループに加入し、福祉施設等での活動につながった。また、傾聴ボランティアフォローアップ講座では、30名の活動者が参加し、実技体験などを行うことで傾聴活動に必要な視点などを学ぶ機会となった。
課題・方向性	引き続き、傾聴ボランティア活動では、活動グループと調整のもと福祉施設や個人宅での活動展開を図る。個人宅での活動については、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所のニーズに基づき、段階的に活動エリアの拡充や活動者の確保に努めていく。また、地域生活課題の解決に向け、幅広い地域福祉活動を担う人材を育成・確保するための講座等を企画・実施していく必要がある。

(ウ) 子育て支援者交流会 ※地域福祉講演会と合同開催

子育て支援に携わっている支援者の今後の子育て支援活動の充実や活性化に繋げることを目的に実施した。

期日	2月21日(土)
場所	市原市市民会館 小ホール
参加者	261名(内97名が子育て支援者関係)
内容	【講演】「こどもの居場所～こどもまんなかの地域づくり～」 講師：認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ 公共政策アドバイザー 湯浅 誠氏

成果	市内で子育て支援に関わる関係者が一堂に会し、現代の子どもたちを取り巻く環境を踏まえた国の施策や子どもの居場所が地域づくりに果たす役割などについて、共通理解を深める機会となった。
課題・方向性	令和7年度は講演のみの開催となったことから、子育て支援活動のすそ野の拡充につながる交流会の企画実施に努めていく。

(3) 人材育成事業

地域特性に応じた地域福祉活動の充実を図るため、新たな担い手の発掘、確保に取り組んだ。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
辰巳台	1日	57名	8名	辰巳台地区の地域福祉に携わる団体を対象に、「互いに支え合うまち辰巳を目指して」をテーマとした住民参加型在宅福祉サービスの体験ゲームなどを通じた研修会を開催し、地域福祉活動実践者の資質向上を図った。
市津	1日	21名	10名	地域住民を対象に日常生活支援事業の説明会を実施。また、支援会員向けの勉強会を行い、活動上の留意点等の情報共有を行った。
ちはら台	2日	174名	30名	地域住民を対象とする福祉の集いなどを開催し、成年後見、地域包括支援の役割などに関する講義、地区社協事業の紹介やボランティア活動紹介、活動者の募集案内を行った。
国分寺台	1日	41名	5名	地域福祉活動に携わる関係団体などを対象に見守り活動に必要な視点の理解を深めるための福祉講演会を開催。テーマ「気づきから支援につながる訪問活動」
有秋	2日	39名	14名	地域の小学校と連携し小学5年生を対象に「福祉の授業」の開催し、地区社協活動の紹介や周知を図った。
南総	2日	39名	14名	地域のアクティブシニア層を対象とする地域デビュー講座をなのはな館と共催で開催。生きがい活動を研究する講師による講義や地区社協活動の実践発表を実施。
加茂	2日	20名	4名	地域のアクティブシニア層を対象とする地域デビュー講座をなのはな館と共催で開催。生きがい活動を研究する講師による講義や地区社協活動の実践発表を実施。
五井	1日	11名	10名	日常生活支援を実施するため、実践地区(三和、有秋地区)のコーディネーターを講師に事業概要、役割等の勉強会を開催。併せて懇談会を開催し、交流を図った。

年度	開催地区	開催日数	参加者数	支援者数
R7年度	8地区	12日	402名	95名
R6年度	6地区	8日	293名	60名
増減	2地区	4日	109名	35名

成果	8 地区で地域福祉に関する講義や日常生活支援事業など地域福祉活動に関する住民向けの勉強会を実施した。402 名の住民が参加し、地域福祉活動の関心や理解を深める機会となった。
課題・方向性	役員の後継者不足、担い手不足が全地区共通の喫緊の課題となっていることから、事業に参加した住民が地域福祉活動へ参加し活動者として定着するよう、フォローアップなどの視点も取り入れた事業の企画や全地区での実施に努めていく必要がある。

2. 権利擁護の推進

(1) 市原市成年後見支援センターの設置・機能の充実

市原市より成年後見支援センター運営を受託し、中核機関として、成年後見支援制度利用の「制度普及」、「相談・支援」、「法人後見受任」、制度利用促進を図るための「協議会」の開催に加え、市原市で初めてとなる「市民後見人養成講座」を実施した。

また、後見制度と両輪とされている福祉サービス利用援助事業の拡充を図った。

①市原市成年後見支援センター（市原市委託事業）

(ア) 成年後見制度相談事業

【対応実績】新規相談・支援総数

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R6 年度	増減
支援総数 (新規相談件数)	1,430 件 (215 件)	104 件 (16 件)	305 件 (23 件)	65 件 (22 件)	1,904 件 (276 件)	3,174 件 (250 件)	△1,270 件 (26 件)

・相談手段別支援内訳

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R6 年度	増減
電話	828 件	45 件	173 件	40 件	1,086 件	1,927 件	△841 件
郵便・メール	115 件	9 件	14 件	0 件	138 件	333 件	△195 件
訪問	380 件	32 件	93 件	14 件	519 件	730 件	△211 件
来局	67 件	17 件	19 件	7 件	110 件	152 件	△42 件
調整会議	11 件	0 件	2 件	3 件	16 件	18 件	△2 件
ケース会議	6 件	1 件	0 件	0 件	7 件	11 件	△4 件
その他	23 件	0 件	4 件	1 件	28 件	3 件	25 件
合 計	1,430 件	104 件	305 件	65 件	1,904 件	3,174 件	△1,270 件

・相談内容別支援内訳

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R6 年度	増減
法定後見	317 件	30 件	72 件	19 件	438 件	269 件	169 件
任意後見	12 件	0 件	0 件	5 件	17 件	10 件	7 件
弁護士相談	19 件	0 件	0 件	3 件	22 件	27 件	△5 件
専門職相談	59 件	0 件	0 件	0 件	59 件	209 件	△150 件
福祉機関紹介	2 件	1 件	0 件	0 件	3 件	5 件	△2 件
公証人役場	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
遺言相続	1 件	0 件	0 件	1 件	2 件	2 件	0 件
事務委任契約	2 件	0 件	0 件	1 件	3 件	0 件	3 件
虐待など	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
福祉サービス利用援助事業	80 件	4 件	11 件	6 件	101 件	101 件	0 件
その他	24 件	1 件	0 件	0 件	25 件	4 件	21 件

申立支援	303 件	19 件	52 件	29 件	403 件	1,050 件	△647 件
後見人支援	13 件	7 件	2 件	1 件	23 件	84 件	△61 件
法人後見	598 件	42 件	168 件	0 件	808 件	1,413 件	△605 件
合 計	1,430 件	104 件	305 件	65 件	1,904 件	3,174 件	△1,270 件

（イ）弁護士による成年後見制度専門相談

【会場：市原市社会福祉協議会（事務局） 時間：午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R6 年度	増減
相談者数	2 名	2 名	2 名	3 名	0 名	0 名	3 名	2 名	2 名	2 名	2 名	2 名	22 名	22 名	0 名

【会場：市原市南部保健福祉センター（年 2 回） 時間：午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分】

月	6	10	計	R6 年度	増減
相談者数	1 名	0 名	1 名	5 名	△4 名

※1…相談者 1 名あたりの相談時間：60 分

※2…1 日の相談枠数：3 名

（ウ）「調整会議」の開催

制度利用の可否やケース検討、市長申立について、司法福祉専門職と市関係機関で構成された「調整会議」を実施。

日程	参加者	内容				審議総数	R6 年度	増減 市長申立
		市長申立	ケース検討	法人後見 受 任	経過報告			
4 月 10 日	11 名	1 件	0 件	0 件	0 件	1 件	1 件	0 件
5 月 13 日	10 名	1 件	0 件	0 件	0 件	1 件	2 件	△1 件
6 月（開催中止）		0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
7 月 24 日	9 名	1 件	0 件	0 件	0 件	1 件	0 件	1 件
8 月 21 日	9 名	1 件	0 件	0 件	0 件	1 件	3 件	△2 件
9 月 9 日	11 名	2 件	1 件	0 件	0 件	3 件	1 件	2 件
10 月 7 日	11 名	2 件	0 件	0 件	0 件	2 件	2 件	0 件
11 月 11 日	11 名	1 件	0 件	0 件	0 件	1 件	6 件	△5 件
12 月 9 日	11 名	1 件	0 件	0 件	0 件	1 件	1 件	0 件
1 月 13 日	17 名	2 件	0 件	0 件	0 件	2 件	0 件	2 件
2 月 10 日	9 名	1 件	0 件	0 件	0 件	1 件	0 件	1 件
3 月 10 日	14 名	2 件	0 件	0 件	0 件	2 件	2 件	0 件
合計	123 名	15 件	1 件	0 件	0 件	16 件	18 件	△2 件

（エ）広報啓発活動

・後見制度概要の広報活動、センター活動普及や講演会を実施。

期日	場所	講演名	参加者
11 月 6 日	シーモック	シーモック利用者の保護者 勉強会 「後見制度について」	20 名
3 月 18 日	加茂公民館	高滝地区小城福祉ネットワーク 安心訪問員フォローアップ研修「後見制度と後見制度の見直しについて」	27 名
参加人数合計			47 名

(オ)「協議会」の開催

司法・医療・福祉等の地域連携体制を構築し、行政機関、関係機関等及び専門職と意見交換、協議を実施した。

期日	場所	参加者	協議内容
8月5日	事務局	22名	市原市成年後見支援センターの機能と推進事業について ・令和6年度市原市成年後見センター活動報告 ・令和8年度市民後見人養成講座について ・市原市言い気胸背社会推進プランについて
3月27日	事務局	24名	市原市成年後見支援センターの機能と推進事業について ・令和8年度市民後見人養成講座の開催について ・広報等について ・成年後見制度の見直し等について

(カ)「市民見人フォローアップ研修」の開催

後見人活動に必要な基礎知識を習得し、市民後見人として活動できる人材を育成することを目的として昨年度養成講座を受講修了した20名を対象にフォローアップ研修を実施した。

期日	場所	参加者	研修内容
1月17日	事務局	14名	後見人の実務 ～後見人に選任されたら…～ ① 後見等開始審判後の流れ（審判書受領から活動開始まで） ② 活動開始までに行うこと ③ 後見等活動開始後に行うこと ④ 演習「初回報告書の作成」
3月20日	事務局	13名	後見人の実務 ～後見人に選任されたら…～ ① 被後見人等の状況の変化が起こったら… ② 定期報告 ③ 後見等の終了
通年	市内	12名	本会契約者等への同行支援及び実務研修

②法人後見の実施

調整会議において制度利用が適正と承認された方の候補者として、家庭裁判所へ申立をし、後見人等として受任をした。(R8.3.31現在受任中の数値)

区分	後見人	保佐人	補助人	受任件数	R6年度	増減
高齢者	3件	3件	3件	9件	9件	0件
知的障がい者	1件	0件	0件	1件	2件	△1件
精神障がい者	1件	1件	1件	3件	2件	1件
その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件
合計	5件	4件	4件	13件	13件	0件

③福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）

高齢者や障がい者に対し、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理等の援助を行うことにより、地域での自立した生活を送ることを支援するために、福祉サービス利用援助事業を実施した。

【対応実績】

(ア) 新規相談・契約件数

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R6年度	増減
新規相談件数	81件	4件	11件	6件	102件	102件	0件
新規支援・訪問回数	335件	24件	79件	7件	445件	465件	△20件
新規契約件数	26件	1件	6件	1件	34件	31件	3件

(イ) 契約者訪問・相談支援件数

月	契約者数	訪問支援件数	相談支援件数	支援合計	R6 年度	増減
4	117 件	167 件	353 件	520 件	445 件	75 件
5	115 件	151 件	287 件	438 件	619 件	△181 件
6	115 件	161 件	289 件	450 件	475 件	△25 件
7	114 件	157 件	285 件	442 件	550 件	△108 件
8	110 件	133 件	189 件	322 件	526 件	△204 件
9	108 件	144 件	219 件	363 件	445 件	△82 件
10	109 件	164 件	285 件	449 件	451 件	△2 件
11	110 件	144 件	210 件	354 件	426 件	△72 件
12	111 件	160 件	267 件	427 件	520 件	△93 件
1	111 件	170 件	280 件	450 件	521 件	△71 件
2	118 件	164 件	233 件	397 件	448 件	△51 件
3	119 件	175 件	275 件	450 件	422 件	28 件
合計		1,890 件	3,172 件	5,062 件	5,848 件	△786 件

成果	契約者の死亡等による契約数の減少に伴い、相談支援回数も減少したが、新規相談数は増加し、センターの認知度が向上したものとする。8 月には職員 2 名を補充し、下半期から新規ケース対応を強化することができた。また、市民後見人養成講座修了者に対し、フォローアップ研修（座学、実務研修）を実施し、社協の支援員として 12 名が継続して活動に就くことができています。
課題・方向性	後見制度については、未だ十分に普及しているとは言えない状況であるが、引き続き様々な媒体や講習会等を通じて広く市民へ周知するとともに、本人の意思に沿った制度利用となるよう、本人、地域住民、関係者とチームを組んだ支援体制の構築を図っていく。また、第 2 期市民後見人養成講座の開催と修了者に対し引き続きフォローアップ研修を行い、市民後見人として活躍できる人材の育成に努める。

3. 災害対応力の向上

(1) 災害ボランティアセンターの体制強化

「災害ボランティアセンター」の体制強化を図るために、市原市との間で締結した「災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する協定書」や大規模災害時などに備え策定した事業継続計画（BCP）に基づき、災害支援活動に取り組む関係機関・団体等と連携・協働のもと下記の取組みを行った。

(2) 災害ボランティアの育成・確保

①災害ボランティア養成講座（基本編）

災害時のボランティア活動や災害ボランティアセンターについて基本的な知識や技術を学ぶとともに、被災後の復興支援に取り組む「災害ボランティア」を養成することを目的として実施した。

期日	7 月 12 日（土）
場所	市原市消防局 2 階講堂
参加者	一般市民 56 名
内容	【説明】「市原市災害ボランティアセンターについて」 説明：市原市社会福祉協議会職員 【講義・演習】「災害ボランティア（センター）の役割について」 講師：公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク 常務理事 天寺 純香 氏 【事務連絡】「市原市災害ボランティア登録制度について」 ⇒ 38 名事前登録

②災害ボランティア養成講座（ステップアップ編）

今後の大規模災害に備えて、災害発生時に迅速・円滑に救援活動が行えるよう、災害ボランティアのリーダーとして活動するために必要な知識を習得し、資質向上を図ることを目的として実施した。

期日	10月13日（月）
場所	市原市消防局 2階講座
参加者	災害ボランティア事前登録者 63名
内容	【講義・演習】「水害時のボランティア活動とボランティアセンターの資機材について」 講師：公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク 代表理事 片桐 卓 氏

③市原市自主防災実務者講習会（※NPO 法人ゆかいな仲間たちの主催事業）

市原市自主防災実務者講習会の中で「災害ボランティアセンター」について講義を行った。

期日	7月6日（日）
場所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室

④いちほら市民大学専門講座（※市原市の主催事業）

防災コースにて「災害ボランティアセンターの役割」について講義を行った。

期日	12月10日（水）
場所	サンプラザ市原 9階 研修室 1・2
受講者	一般市民 14名

（3）市原市災害ボランティア活動連絡調整会議の開催

市原市が大規模災害に見舞われたとき、関係機関及び団体が連携し、迅速かつ効果的な支援活動を行えるよう、平常時から災害対策について情報の共有や施策の連携を図ることを目的として、市原市災害ボランティア活動連絡調整会議を実施した。

期日	1回目：6月17日（火） 2回目：10月2日（木） 3回目：12月22日（月） 4回目：2月25日（水）
場所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
内容	1回目 ①令和7年度開催スケジュールについて ②構成機関・団体の拡充について ③令和7年度事業計画について （災害ボランティア養成講座【基本編】、災害ボランティア養成講座【ステップアップ編】、災害ボランティアセンター設置運営訓練） ④構成機関・団体の活動近況報告について 2回目 ①令和7年度事業について （災害ボランティア養成講座【基本編】の開催報告、災害ボランティア養成講座【ステップアップ編】、災害ボランティアセンター設置運営訓練及び福祉避難所開設運営訓練） ②構成機関・団体の活動近況報告について 3回目 ①令和7年度事業について （災害ボランティア養成講座【ステップアップ編】の開催報告、災害ボランティアセンター設置運営訓練及び福祉避難所開設運営訓練） ②構成機関・団体の活動近況報告について 4回目 ①令和7年度事業について （災害ボランティアセンター設置運営訓練及び福祉避難所開設運営訓練の開催報告） ②災害ボランティア活動連絡調整会議における構成機関・団体の在り方について ③令和8年度事業について ④構成機関・団体の活動近況報告について

(4) 災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施

「初動体制マニュアル」及び「災害ボランティアセンター運営マニュアル【改訂版】」に基づき、市原市において大規模災害が発生した場合に迅速に対応するため、災害ボランティアセンターの設置運営を行うとともに、関係団体の協力を得てサテライト災害ボランティアセンターの設置運営訓練を実施した。※福祉避難所開設運営訓練同日開催

期日	1月31日（土）
場所	辰巳公民館
参加者	100名
内容	「事業継続計画（BCP）に基づく災害ボランティアセンター設置運営訓練」 協力団体 市原市ボランティア連絡協議会、千葉県災害対策コーディネーター連絡会、（公社）SL災害ボランティアネットワーク・市原、（公社）SL災害ボランティアネットワーク千葉県ネット、日本赤十字社千葉県支部、千葉土建一般労働組合市原支部、地区社協連絡会、市原市民生委員児童委員協議会、市原市総務部危機管理課、市原市保健福祉部共生社会推進課

成果	災害時に円滑・迅速な災害ボランティアセンターの設置・運営を図るため、訓練や講座、関連団体が参画する調整会議などを開催するとともに、市民大学や防災訓練、防災関係者の講習会等への積極的な参加を通じた啓発活動を行った。 「災害ボランティア養成講座」では、新たに38名が災害ボランティアとして登録し、事前登録者は累計146名となり、フォローアップ講座では、災害ボランティアリーダーとしてのスキルを学び活動意識の醸成につながった。 「災害ボランティア活動連絡調整会議」では、災害時の連携体制の強化を図るため新たに2団体が参画し、「災害ボランティアセンター設置運営訓練」では、業務のデジタル化に向けたkintone（キントーン）を初めて導入し、実践的な訓練を実施した。
課題・方向性	平常時から災害時に迅速に対応できるよう「災害ボランティア養成講座【ステップアップ編】」や「災害ボランティアセンター設置運営訓練」を通じて、センタースタッフやボランティア活動リーダーを担う人材の育成や、センター業務のデジタル化に向けkintone（キントーン）の活用の幅を広げ、災害発生時にも混乱なく対応できるよう事前準備を進めていく。 また、引き続き、災害時にセンター設置やボランティア活動を円滑に実施するため災害支援活動に取り組む関係機関・団体との連携・協働体制の構築に向けたアプローチと調整会議への参画を促していく必要がある。

(5) 災害支援ボランティア事業

災害にも強い地域づくりに向けて、地域住民や地域関係者を対象に防災・減災の意識啓発と災害時におけるボランティア活動を切り口とする地域での災害支援活動について勉強会等を企画実施した。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
辰巳台	2日	50名	14名	地区社協関係者を対象に、本会職員によるサテライト災害ボランティアセンターの役割に関する講義やセンター各班の一連の流れを体験する勉強会を実施。市社協主催のセンター設置運営訓練参加。
ちはら台	2日	23名	4名	地区社協関係者を対象に、本会職員によるサテライト災害ボランティアセンターの役割に関する講義やセンター各班の一連の流れを体験する勉強会を実施。市社協主催のセンター設置運営訓練参加。
国分寺台	2日	38名	10名	市社協と連携し地域の関係団体を対象に福祉避難所の理解を深めるための勉強会及び避難所運営訓練を開催し、地域における避難所への運営協力の必要性などの意識醸成を図った。市社協主催の避難所設置運営訓練参加。
有秋	1日	27名	7名	有秋・姉崎・千種地区が合同での研修会を開催し、福祉避難所の開設・運営について理解を深めた。
南総	1日	27名	3名	地区社協関係者、市社協に事前登録する災害ボランティアを対象に、本会職員によるサテライト災害ボランティアセ

加茂	1 日	30 名	3 名	ンターの役割に関する講義やセンター各班の一連の流れを体験する勉強会を実施。南総・加茂地区合同開催
五井	1 日	13 名	6 名	地区社協関係者を対象に、本会職員によるサテライト災害ボランティアセンターの役割に関する講義やセンター各班の一連の流れを体験する勉強会を実施。
市津	2 日	32 名	5 名	地区社協関係者を対象に、本会職員によるサテライト災害ボランティアセンターの役割に関する講義を実施。 市社協主催のセンター設置運営訓練参加。

年度	開催地区	開催日数	延参加者数	延活動者数
R7 年度	8 地区	12 日	240 名	52 名
R6 年度	6 地区	10 日	235 名	72 名
増減	2 地区	2 日	5 名	△20 名

成果	災害時に設置が想定される災害ボランティアセンター・サテライト災害ボランティアセンター、福祉避難所の理解を深めるため、8 地区が市社協と連携した講義や体験型勉強会の実施し、また訓練にも参画されたことで、関係者のスキルアップや運営協力体制の構築に向けた意識醸成につながった。
課題・方向性	引き続き、継続的な勉強会や訓練を通じて各地区における災害ボランティア活動の理解を深めるとともに、サテライト災害ボランティアセンター、福祉避難所の運営協力体制の構築に向けた検討を進める。

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業

指定管理者として、老人福祉センター、保健福祉センター（3 館）をそれぞれ運営した。

施設名	指定管理期間
老人福祉センター	令和 6 年 4 月 1 日～令和 11 年 3 月 31 日
三和保健福祉センター	
南部保健福祉センター	令和 8 年 4 月 1 日～令和 13 年 3 月 31 日
姉崎保健福祉センター	令和 3 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日 (令和 8 年 4 月 1 日以降も指定管理を受託)

(1) 老人福祉センター管理経営事業

高齢者に対し、各種の相談に応じるとともに健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与することを目的として、健康体操の実施、保健師による健康相談や血圧測定、その他教養講座を次のとおり開催した。

事業名		期日
健康相談・血圧測定(保健師：串田保健師)		毎月 1 回
各種講座	大正琴	第 2・第 4 水曜日
	書道	第 1・第 3 金曜日
	生け花	第 2・第 4 木曜日
	アートフラワー	第 1 木曜日
	絵てがみ	第 1 月曜日
	囲碁会	毎週火曜日
	ゲートボール	休止

①月別利用状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
老人クラブ	団体数	5	2	3	2	3	4	4	3	3	4	4	2	39 団体
	人数	94	36	45	36	54	74	56	42	51	120	69	37	714 名
一般団体	団体数	24	22	25	24	16	24	29	23	24	20	22	21	274 団体
	人数	270	254	273	282	200	267	300	263	265	230	239	226	3,069 名
団体合計	団体数	29	24	28	26	19	28	33	26	27	24	26	23	313 団体
	人数	364	290	318	318	254	341	356	305	316	350	308	263	3,783 名
個人人数		855	856	902	869	767	787	896	772	795	762	806	931	9,998 名
総 合 計		1,219	1,146	1,220	1,187	1,021	1,128	1,252	1,077	1,111	1,112	1,114	1,194	13,781 名

②利用状況前年度比較

区分	団体数		前年度 比較増減	人数		前年度 比較増減
	令和 7 年度	令和 6 年度		令和 7 年度	令和 6 年度	
老人クラブ	39 団体	34 団体	5 団体	714 名	621 名	93 名
一般団体	274 団体	279 団体	△5 団体	3,069 名	3,202 名	△133 名
個人				9,998 名	11,525 名	△1,527 名
合計	313 団体	313 団体	0 団体	13,781 名	15,348 名	△1,567 名

成果	積極的に声掛けをし市民が利用しやすい環境づくりに気を配った。 健康体操やラジオ体操の参加を呼びかけ利用者の健康促進を図った。
課題・方向性	前年度と比較すると老人クラブの利用は増加したが教養講座、個人利用の人数が減少している。今後も利用しやすい体制を整え積極的に呼びかけをする。

(2) 姉崎保健福祉センター管理経営事業

①地域福祉センター

地域住民やボランティア、民間福祉団体等の福祉活動の拠点として利用を促進するとともに、各種福祉情報の提供を総合的に行い、地域住民の福祉意識の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R6年度	増減
体育室	2,220	2,219	2,990	2,815	2,495	2,550	2,915	2,237	2,141	1,881	2,022	2,255	28,740	12,372	16,368
ボランティアルーム	368	330	537	475	286	347	435	364	389	463	333	603	4,930	4,582	348
実習室	191	173	222	255	130	197	287	292	207	222	159	161	2,496	2,212	284
調理実習室	3	2	14	43	2	12	7	22	45	9	22	28	209	192	17
研修室	495	442	644	878	365	732	755	684	442	1,198	383	1,228	8,246	7,240	1,006
多目的ホール	670	645	831	784	472	724	882	752	667	513	433	672	8,045	7,966	79
ゲートボール場	19	21	0	0	0	0	20	23	0	19	22	91	215	260	△ 45
相談室	44	166	28	81	5	38	75	102	101	194	121	78	1,033	633	400
合計	4,010	3,998	5,266	5,331	3,755	4,600	5,376	4,476	3,992	4,499	3,495	5,116	53,914	35,457	18,457

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
バリアフリースポーツ教室	7月27日 8月24日 9月28日	バリアフリースポーツを通して、多世代の住民同士のふれあいや交流、相互理解を深めることを目的に実施した。	126名
昔あそび	6月28日 10月25日 1月24日 3月21日	昔から伝承されている子どもの遊びを教わるとともに一緒に楽しみながら世代間の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催) 協力：シルバー友の会	213名
アネッサクリーンミニ作戦	4月12日	施設利用者と地域住民とで地域の清掃活動を行い、地域貢献とともに、世代間・サークル間の交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。(児童館と共催)	65名
自主防災講習会	7月 (全2回)	防災についての知識を深め、地域防災の在り方や取組について学ぶことを目的として実施した。 (NPO法人ゆかいな仲間たちと共催)	68名
アネッサ発クリーン大作戦	11月15日	施設利用者と地域住民とで地域の清掃活動を行い、地域貢献とともに、世代間・サークル間の交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。(児童館と共催)	80名
手話入門講座	1月～3月 (全10回)	障がいに対する理解とボランティア意識の向上を図るため、初心者を対象とした手話入門講座を実施した。	107名
アネッササンクスフェスタ	11月23日	地域住民同士の交流を促進し、地域との新たなつながりをつくることを目的に、姉崎地区社会福祉協議会と共催による「アネッサ福祉祭りバザー」として実施した。	350名
チャレンジ夏休みの課題	7月29日 7月30日 7月31日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて世代間交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。(児童館及び青少年会館と共催)	66名
グランドゴルフ大会	10月19日	社会体育振興会の呼び掛けにより、世代間の交流を図ることを目的として実施した。(社会体育振興会と共催)	21名
普通救命講習	5月20日	万が一における事故等に市民が対応できる知識及び技術を身につけてもらうための講習会を実施した。	8名
施設内美化活動	6月25日 10月11日	敷地内の除草を利用者に呼びかけ、ボランティア意識の向上と親睦を図ることを目的として実施した。	25名
ボランティア活動紹介	7月1日 ～7月31日	アネッサを利用するボランティアグループの活動紹介を掲示することで、市民のボランティア活動への関心を高めるとともに、活動の周知及び啓発を図ることを目的として実施した。	11団体
サークル活動紹介	1月4日 ～2月28日	日頃アネッサを利用しているサークルの活動紹介を掲示し、地域住民に広く周知することで、生きがいのある活動のきっかけづくりとすることを目的として実施した。	14団体
レコード交流会	4月～3月 (全12回)	レコード鑑賞(茶話会)を通じて地域住民の居場所づくりを行い、交流する機会を提供することを目的として実施した。	307名
おもいっきり体育室	6月28日 8月23日 10月25日 3月21日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催)(8月はw e ほーると共催)	184名
あそびばアネッサ	12月13日	子どもの居場所を提供するとともに、「あそび」を通じた住民同士の交流により、地域内の福祉ニーズの発掘や福祉に対する理解促進を図ることを目的として実施した。(姉崎地区社会福祉協議会との共催)	75名

地域食堂 げんき食堂アネッサ	4月～3月 (全9回)	子どもから高齢者まで様々な世代が交流し、地域の絆を深め、お互いさまの気持ちを育むことができる居場所づくりを目的として実施した。 (姉崎地区社会福祉協議会との共催)	342名
共生型サロン ニコニコサロン	4月～3月 (全10回)	高齢者、就学前の親子、障がい者を含む地域の誰もが参加でき、交流を図ることを目的として実施した。 (姉崎地区社会福祉協議会との共催)	310名
卓球教室	7月26日 7月27日	アネッサを利用している高齢者卓球サークルが講師となり、小学校児童を対象とした卓球教室を開催することで交流を図り、高齢者にボランティア活動への参加促進及び生きがいづくりを目的として実施した。	56名

成果	保健福祉センターの特性を活かした地域の各種団体等との共催事業を実施した。特に姉崎地区社会福祉協議会と共催した「アネッササクスフェスタ（アネッサ福祉祭りバザー）」により、世代間交流や地域の絆づくり、居場所づくりが図られ、地域住民と一体となった事業展開を行うことができた。また、各事業の内容を充実させたことにより、世代間の交流が図られ、高齢者や児童、障がいのある方等が相互理解を深めることができた。
課題・方向性	今後も地域の福祉ニーズや相談に応じ、適切な管理運営と住民参加による各種事業を企画実施していく。また、アネッサ広報紙やホームページ、SNSを活用し、積極的な広報活動を行い活動のPRを進めていくとともに、ボランティアが参加しやすい環境整備に努めていく。

②老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

(ア) 月別利用状況〔貸室〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R6年度	増減
大広間	団体 41	12	8	5	17	15	22	15	16	1	1	9	162	159	3
	個人 572	541	601	632	605	557	596	515	518	560	338	567	6,602	6,925	△ 323
和室	53	28	61	32	20	33	56	50	49	50	21	101	554	724	△ 170
男性浴室	528	480	317	113	500	485	562	567	550	558	607	678	5,945	5,634	311
女性浴室	210	167	98	20	94	104	140	191	194	222	239	291	1,970	1,172	798
合計	1,404	1,228	1,085	802	1,236	1,194	1,376	1,338	1,327	1,391	1,206	1,646	15,233	14,614	619

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
ヨガ教室	4月～7月 (全10回)	初心者向けのヨガ教室を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：鈴木 なぎさ 氏	86名
一文字書を楽しむ (書道教室)	7月18日 7月25日 8月1日 8月8日	書道を通じ趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場を提供することで心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：大野 蘭秀 氏	25名
健康体操教室	1月～2月 (全4回)	健康体操を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：栗林 雄一 氏	37名
フラワーアレンジメント教室	3月3日 3月24日	フラワーアレンジメントを通じ趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場を提供することで心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：茂木 朋美 氏	19名

はじめての 太極拳教室	1月～3月 (全8回)	太極拳を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、 介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として 実施した。 講師：山崎 辰雄 氏	257名
絵手紙教室	11月～1月 (全10回)	絵手紙の基本を学ぶことで趣味活動や創作意欲を高めると ともに、交流の場を提供することで心身の健康維持を図る ことを目的として実施した。 講師：東 洋子 氏	86名
介護予防講話 ・体操教室	2月24日 3月3日 3月10日 3月17日	地域包括支援センターによる講話や体操を通じ、体力の維 持増進を図り介護予防に繋げることを目的として実施し た。 講師：地域包括支援センターたいよう	35名
イキイキ健康 エクササイズ	11月～2月 (全8回)	有酸素運動等の体操を通じて健康増進を図るとともに、参 加者相互の交流を図り、生きがいのある生活が送れるよう 助長することを目的として実施した。 講師：野田 真由美 氏	184名
ヨガ教室中級	10月～11月 (全6回)	ヨガ教室を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、 介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として 実施した。 講師：鈴木 なぎさ 氏	52名
アネッサケーキ作 り教室	3月14日	ケーキづくり教室を通じて、参加者相互の交流を図り、 生きがいのある生活を送れるよう助長することを目的 として実施した。 講師：野田 真由美 氏	8名
歩こう会	4月～3月 (全12回)	高齢者の介護予防と生きがいづくりの場を提供することを 目的として実施した。 (姉崎小学校区小域福祉ネットワークとの共催)	270名

成果	主催事業やサークル利用により、高齢者の社会参加の契機やフレイル予防につなげ、高齢者福祉の推進に寄与することができた。また、姉崎地区社会福祉協議会との連携により、ちょっとした困りごとを抱えるセンター利用の高齢者への声掛けや生活支援につなぐことができた。
課題・方向性	事業等への興味や関心を地域の高齢者に持ってもらい、参加や利用を促進するために、本会ホームページやアネッサだより等での広報活動を積極的に行う必要がある。また、利用者の安全を確保するため、設備点検等を実施し、適切な施設管理に努めたい。

③児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。

(ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R6年度	増減
児 童	441	363	448	808	738	737	610	382	316	462	374	479	6,158	5,197	961
保護者	219	221	278	324	302	318	355	222	219	282	210	231	3,181	3,093	88
合 計	660	584	726	1,132	1,040	1,055	965	604	535	744	584	710	9,339	8,290	1,049

(オ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R6年度	増減
登録者	3	3	5	4	2	7	5	2	1	2	0	4	38	48	△ 10
貸出(冊)	163	193	223	241	186	268	312	180	72	184	121	173	2,316	2,118	198

(カ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
子育て支援拠点事業			
ポヨポヨクラブ	毎週火曜日	未就学児とその保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	1,238 名
ひよこクラブ	毎週木曜日		873 名
のびのびクラブ	毎週金曜日		1,192 名
相談支援事業	通 年	子育ての不安感等を緩和するために実施した。	37 名
定期企画事業			
英語で遊ぼう	毎月第3水曜日	楽しく遊びながら英語に親しむ子育てクラブを実施した。	149 名
ママといっしょ	毎月第4水曜日	楽しく遊びながら音楽に親しむ子育てクラブを実施した。	214 名
ふたごっちクラブ	毎月第2水曜日	ふたごっちを対象として、簡単な手遊び・絵本の読み聞かせ・保護者同士の交流を通して育児についての情報交換や仲間作りの場として実施した。	34 名
ゲーム・工作	毎週日曜日	手ぶらで気軽に楽しめるイベントを土日に開催しています。	320 名
おもいっきり体育室	6月28日 8月23日 10月25日 3月21日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催) (8月はweほーと共催)	145 名
昔あそび	6月28日 10月25日 1月24日 3月21日	昔から伝承されている子どもの遊びを教わるとともに一緒に楽しみながら世代間の交流を図ることを目的として実施した。(地域福祉センターと共催) 協力：シルバー友の会	171 名
必須事業			
乳幼児のための救急法	9月25日	乳幼児を持つ保護者が家庭内における突発の事故に対処するための基礎知識を習得することを目的として実施した。 講師：姉崎消防署	33 名
ママのリフレッシュ講座	7月10日	日頃の育児疲れやストレスを発散し、リフレッシュしてもらうことを目的に「ヨガ教室」を実施した。 講師：鈴木 なぎさ 氏	16 名
すこやか講座	7月29日 9月5日 11月13日	育児についての日頃の悩みなどを話し合い、育児の大切さを学ぶとともに、育児に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。	80 名
食育座談会	7月17日	食について日頃の悩みなどを話し合い、食の大切さを学ぶとともに、食に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。 講師：市原市ネウボラセンター栄養士	20 名
児童館大運動会	10月29日	発育時期に分かれ実施している事業を合同でイベントを行うことで、通常事業とは違う情報交換や仲間作りの場の提供も兼ねるとともに、参加者間及び親子間の交流を図ることを目的に実施した。	71 名
選択事業			
アネッサ自然体験	9月27日	自然に親しみながら情操を豊かにするとともに、集団生活を通して協調性及び責任感を認識させることを目的として実施した。	33 名
中高生による子育てクラブ	通年	中高生ボランティアによる読み聞かせ、手あそびなどを実施した。	96 名
キッズボランティアクラブ	通年	児童のボランティア活動への参加促進を図ることを目的とし、小中学生のボランティアによる子育てクラブでの発表に向けて練習した。	132 名

アネッサ発 クリーン大作戦	11月15日	施設利用者と地域住民とで地域の清掃活動を行い、地域に貢献するとともに、世代間・サークル間の交流を図り相互理解を深めることを目的として実施した。（地域福祉センターと共催）	97名
単発企画事業			
おもしろ実験教室	9月13日	児童自らが創造し、自らの手で作る楽しさを体験することにより情操を豊かにするとともに集団活動を通じて協調性及び責任を認識させることを目的として実施した。	17名
児童館クリスマス会	12月17日	未就学児とその保護者が安心して過ごせる場所を提供し、子どもの成長と子育てに悩む保護者同士の交流の場として利用されることを目的として実施した。	149名
チャレンジ 夏休みの課題	7月29日 7月30日 7月31日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて世代間交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。（地域福祉センター及び青少年会館と共催）	70名
ハンドメイド教室	11月1日	児童自らの手で作る楽しさを知り情操を豊かにするとともに、協調性・責任感を認識させることを目的として実施した。 講師：那須野 奈緒子 氏	10名
クッキング教室	12月6日	児童自らの手で作る楽しさを体験するとともに、親子のふれあう喜びを味わい、情操を豊かにすることを目的として実施した。	18名
お楽しみ劇場	6月20日 10月24日 2月13日	人形劇を通して情操を豊かにするとともに、協調性を養うことを目的として実施した。	98名
ドールシアター	7月8日 11月11日	人形劇を通して想像力を豊かにするとともに、情操や協調性等を養うことを目的として実施した。	67名
卓球教室	7月26日 7月27日	アネッサを利用している高齢者卓球サークルが講師となり、小学校児童を対象とした卓球教室を開催することで交流を図り、高齢者にボランティア活動への参加促進及び生きがいづくりを目的として実施した。	8名

成果	子育てクラブを充実させたプログラムで実施したため、参加者から好評を得ることができた。また、小学生のためのスペースを設けたことが浸透し、居場所として繰り返し利用する児童が増えたことで利用者層の拡大につながった。
課題・方向性	これまでの事業のあり方等を見直し、利用者の立場に立った環境整備を図るとともに、内容の充実化を検討していく。また、利用者のニーズに合った事を検討していくとともにSNSを活用したPRを継続艇に行う。

（３）三和保健福祉センター管理経営事業

①地域福祉センター

地域住民やボランティア、民間福祉団体等の福祉活動の拠点として利用を促進するとともに、各種福祉情報の提供を総合的に行い、地域住民の福祉意識の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

（ア）月別利用状況〔貸室〕

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R6年度	増減
ボランティアルーム	314	277	260	361	238	340	331	287	248	277	284	224	3,441	3,626	△ 185
研修室	111	134	136	132	97	167	154	144	155	121	156	143	1,650	1,676	△ 26
多目的ホール	377	389	455	376	347	466	476	410	477	526	438	408	5,145	3,578	1,567
創作活動室	88	93	78	142	58	122	100	126	111	69	70	89	1,146	1,477	△ 331
合計	890	893	929	1,011	740	1,095	1,061	967	991	993	948	864	11,382	10,357	1,025

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
おもちゃ図書館	4月～3月 (毎月第2・4 土曜日)	未就学児を対象に、おもちゃで遊ぶことを通して心身の健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を図ることを目的として、ボランティアグループ「おもちゃ図書館かるがも」の協力により実施した。	788名
さんあーとくらぶ	4月～3月 (第3日曜 日)	障がいを持つ人を対象としたボランティアによる絵画・工作教室を実施した。 講師：米元志慶子氏	57名
子育てサロン さんわぽかぽか	4月～3月 (毎月第4月 曜日 8、1月 除く10回)	地区社会福祉協議会と連携、主に未就学児と保護者を対象に遊びと交流の場を提供すること及び見守りや相談等の活動を担うボランティアの育成支援を目的に実施した。	278名
世代間交流	5月28日 10月23日	60歳以上の高齢者と未就学児がおもちゃ作りやクイズラリーを介して交流することで喜びを感じてもらうことを目的として実施した。	51名
歌声喫茶	6月25日 7月30日 9月25日 11月26日 12月24日 3月5日	サンハート利用者や地域住民を対象に、音楽を通じて参加者相互のふれあいや交流を図り、また、利用団体に対して活動の披露の場を提供した。	268名
さんさんクリーン大作戦	11月9日 (雨天中止)	地域住民やサンハート利用者が協力して清掃活動を行うことで、交流しながら地域の環境美化を実践し、併せてボランティア活動の啓発を図ることを目的として、施設周辺のごみ拾いを予定したが雨天のため中止となった。	0名
サンハートまつり	1月25日	施設利用サークル及び地域住民の交流の活性化による施設利用促進を目的として、サークルの展示や発表の場のほか地域や障がい者関係団体と連携した模擬店出店などにより、地域交流を行った。	325名
市民講座	2月21日	地域住民を対象に、福祉についての関心を深め、住み良い地域づくりを推進するため、「認知症サポーター養成講座」を実施した。	4名

成果	高齢者・障がい者・子育て家庭・地域住民がふれあい交流する機会や場の提供を地域福祉関係団体等の協力を得て取り組み実施したことで、地域との連携強化につなげることができた。また、地域交流を目的とした「サンハートまつり」や歌声喫茶を開催したことで地域や幅広い層の交流が図られ、地域における相互理解を深めることができた。
課題・方向性	地域や利用者の高齢化が進んでおり、事業参加者の減少が懸念される。近年、社会情勢や生活環境の変化が顕著なことから、利用者ニーズの変化に即した事業の展開を工夫し、より効果的な事業と安心・安全な施設利用環境を整え利用促進につなげていく。

②老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

(ア) 月別利用状況〔貸室〕

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R6年度	増減
大広間(団体)	0	0	51	56	0	34	0	40	40	206	0	52	479	512	△ 33
大広間(個人)	150	143	156	168	200	150	150	144	144	149	146	148	1,848	1,271	577

和室	27	36	36	41	29	52	33	37	27	63	12	36	429	394	35
男性浴室	320	363	449	482	444	396	469	441	437	410	420	451	5,082	0	5,082
女性浴室	118	145	165	190	195	199	193	175	167	179	158	190	2,074	0	2,074
生活相談室	33	37	58	41	21	30	35	35	29	26	26	37	408	410	△ 2
合計	648	724	915	978	889	861	880	872	844	1,033	762	914	10,320	2,587	7,733

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
健康体操教室	5月～6月 10月 (全8回)	運動の習慣化を図り、基礎体力の維持と健康で生きがいのある生活につなげることを目的として実施した。 講師：大前陽子氏	110名
トールペイント教室	12月 (全2回)	創作活動を通して教養を高め、参加者と交流することで生きがいのある生活につなげることを目的として実施した。 講師：黒川美智子	15名
気功教室	6月 (全4回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：上久保治子氏	50名
ヨガ教室	6月 12月～1月 (全8回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：古川佳子氏	116名
絵手紙教室	7月 11月 (全4回)	趣味活動を通じて教養を高め、参加者と交流することで生きがいのある生活につなげることを目的として実施した。 講師：向井艶子氏	28名
いつでも脳トレ教室	7月 9月 (全2回)	日常生活の中で認知機能の低下を防ぐ脳トレを継続することで、脳を健康な状態に保ち介護予防につなげることを目的として実施した。 講師：豊留富美氏	27名
ボールエクササイズ教室	9月 (全4回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：根本壽美子氏	43名
テーブルでできる 茶の湯教室	9月～10月 (全4回)	趣味活動と交流の場を提供することを目的に実施した。 講師：白川ますみ氏	41名
一文字書教室	11月 (全4回)	趣味活動と交流の場を提供することを目的とし実施した。 講師：大野文子氏	17名
ステップ エクササイズ教室	11月 (全4回)	運動の習慣化を図り、基礎体力の維持と健康で生きがいのある生活につなげることを目的として実施した。 講師：根本壽美子氏	51名

成果	フレイル予防や運動機能維持を目的とした事業を展開したことで、高齢者の健康意識の向上と健康維持につなげることができた。また、教養講座を通して交流を深め、創作活動や趣味の幅を広げることで生きがいを感じ活力に満ちた生活につなげることができた。
課題・方向性	各事業とも好評で定員越えの参加希望がある状況だが、新規の参加者が少ない傾向にある。高齢者のニーズを把握し、各事業の展開を工夫することで参加意欲を高める。また、SNSなどを活用し、より幅広く効果的な周知を行うことで新規参加者の開拓と利用促進につなげていく。

③児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。

(ア) 月別利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R6年度	増減
児童	400	447	449	782	626	524	589	432	491	454	410	504	6,108	4,957	1,151
保護者	245	336	375	562	477	368	447	340	396	348	333	368	4,595	4,228	367
合計	645	783	824	1,344	1,103	892	1,036	772	887	802	743	872	10,703	9,185	1,518

(イ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を行った。

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R6年度	増減
新規登録者	2	0	6	4	4	4	1	2	0	5	5	5	38	60	△ 22
貸出(冊)	233	304	367	289	283	200	252	194	68	182	221	250	2,843	3,584	△ 741

(ウ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
必須事業			
子供ボランティア 育成支援事業(児童館ボランティアクラブ)	通年	児童を対象にボランティアの育成を目的として「児童館ボランティアクラブ」に登録してもらい、子育てクラブやイベント等において合奏や歌など発表体験を行った。	64名
年長児童等来館促進事業(子育てクラブボランティア)	通年	三和地区社会福祉協議会と協働し、夏休み期間中の中学生・高校生に子育てクラブにおいて絵本の読み聞かせや遊び相手等のボランティア活動の機会を提供した。	21名
子育て支援事業			
さんさんくらぶ	毎週火曜日	1歳以上の乳幼児と保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	782名
きらきらくらぶ	毎週金曜日	2歳以上の乳幼児と保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	372名
よちよちくらぶ	毎週木曜日	1歳児と保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	426名
あかちゃんくらぶ	毎週水曜日	0歳児と保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	287名
よちよち・きらきら合同くらぶ	なし	夏休み期間の事業効果を高めるため、個別くらぶ形式に加え、合同くらぶ形式でも実施した。	名
子育てクラブ合同	8月 10月 12月 3月	事業効果を高めるため、個別くらぶ形式に加え、合同くらぶ形式でも実施した。	243名
定期企画事業			
クラフト&プレイ	第2、第4日曜日	児童自らの手で作り、描き、物事を演じる楽しさを味わうことにより、情操を豊かにするとともに、集団活動を通じて協調性及び責任感を認識させることを目的に実施した。	115名
みんな遊ぼう	第3日曜日	児童自ら運動、ゲームを通して遊ぶ楽しさを味わうことにより、情操を豊かにするとともに、集団活動を通じて協調性及び責任感を認識させることを目的に実施した。	118名

おはなし会	第1日曜日	児童厚生員が読み聞かせをすることで、子どもと本を結びつけ、本に対する興味を育み読書の素地を作ることを目的に実施した。	59名
単発企画事業			
知っててよかったママの救急法	5月21日	乳幼児のケガや誤飲などの手当での仕方を実技指導により学ぶ 講師：市原市光風台分署署員	23名
ベビーマッサージ教室	6月4日 6月18日	助産師の指導によるベビーマッサージ 講師：嶋津一恵氏	33名
ふしぎ探検隊実験教室	7月19日	児童が自ら実験を体験することで化学などに対する興味や関心や集中力を高めるほか豊かな情操を養うことを目的として夏休みの体験教室として実施した。 講師：三井化学株式会社市原工場	15名
布ぞうり教室	7月26日	タオルで布ぞうり作りの体験 講師：宋倉春江氏	3名
食育教室	11月19日	乳幼児をもつ保護者を対象として食についての適切な情報の提供し、悩みを共有し合うことで食の大切さを学ぶことを目的として実施した。 講師：富岡真理子（ネウボラセンター栄養士）	15名
親子ベビーヨガ教室	9月25日	乳幼児親子でベビーヨガを体験する 講師：篠宮方美氏	15名
人形劇	10月7日 2月25日	「人形劇団とんとん」による人形劇上演 「レインボーファクトリー」による人形劇上演	31名 24名
絵手紙教室	11月29日	自分の好きな画材でバック作り 講師：向井艶子氏	8名
世代間交流事業 （親子でミュージック） （おはなし広場）	7月4日 12月19日 1月15日	リード楽器ボランティア「フラワー合奏団」の演奏会 〃 読み聞かせボランティア「佐藤ミエ」氏による読み聞かせ（おはなし広場）	46名 44名 19名
相談支援事業	通年	子育ての不安感等を緩和するために実施した。	7名

成果	子育て支援事業では利用者の要望に応じることで多くの親子が参加し、友だちを作るとともに親子の触れ合いや情報交換の場を提供することができた。また、単発企画事業では参加者同士の交流が深められ、子どもたちの情操を養うことにつなげることができた。
課題・方向性	地域の子ども子育てニーズを把握し、実情に応じた事業展開により参加意欲を高めるとともに、SNSの活用を通じて子育て世代の参加者を増やすよう努める。 また、中・高校生世代の子どもたちが居場所として実感できるような取り組みを行う他、ボランティアの育成や職場体験、施設実習の受け入れなどを検討していく。

④障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

（ア） 月別利用状況[貸室]

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R6年度	増減
研修室	307	297	298	484	374	417	332	338	256	294	229	234	3,860	3,984	△ 124
ブレイルルーム	240	239	342	281	344	346	322	332	352	247	248	269	3,562	4,088	△ 526
障がい者談話室	240	239	342	281	344	346	322	332	352	247	248	269	3,562	4,088	△ 526
療育相談室	25	23	28	31	88	17	24	58	33	40	40	68	475	657	△ 182
合計	812	798	1,010	1,077	1,150	1,126	1,000	1,060	993	828	765	840	11,459	12,817	△ 1,358

(4) 南部保健福祉センター管理経営事業

① 地域福祉センター

地域住民やボランティア、民間福祉団体等の福祉活動の拠点として利用を促進するとともに、各種福祉情報の提供を総合的に行い、地域住民の福祉意識の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R6年度	増減
ボランティアルーム	92	159	79	92	60	190	55	110	119	136	141	88	1,321	1,305	16
調理実習室	12	12	18	32	39	10	0	55	37	68	36	26	345	325	20
多目的室	629	806	731	1,546	711	1,101	909	920	915	597	740	599	10,204	9,793	411
創作活動室	12	9	12	62	28	14	9	43	40	32	25	18	304	253	51
会議室②	58	153	170	177	75	264	192	224	159	121	121	167	1,881	1,309	572
合計	803	1,139	1,010	1,909	913	1,579	1,165	1,352	1,270	954	1,063	898	14,055	12,985	1,070

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
子育て支援事業	7月19日 9月20日 11月30日	就学前の児童を対象に、遊びなどを通して心身の健全な発達を促すとともに、同じように子育てをしている仲間との交流の場の提供を目的に実施した。 協力団体：いちほらシルバー友の会（昔あそび） 子育て家庭支援員（絵本の読み聞かせ・ミニうんどう会） 更生保護女性会南総支部（絵本の読み聞かせ）※ ※児童館等と共催	123名
なのはなフェスタ	2月14日	地域住民の交流と当館の利用拡大を目指し、各センターと地域の関係団体との連携によりイベントを行い、様々な世代の交流の場を提供するとともに、ボランティアとして参画していただくことで、地域の担い手として活躍できる「居場所」づくりを行った。 内容：演芸部門（利用サークル・団体等の発表）、囲碁・将棋大会、健脚測定&血管年齢測定、子育てイベント（おまつり広場、サイエンスショー）及びスタンプラリー等	818名
いきいき教室 （介護関連事業等）	7月18日 8月26日 11月28日 2月20日	一人暮らしの高齢者や介護に不安を抱える方などが地域で孤立することなく、安心していきいきとした生活が送れるように、交流やふれあいの場の提供を目的に教室を実施した。 講師：中村佳代氏 近藤まゆみ氏（トータス） 飯野哲佳氏 佐藤氏 四方洋平氏（ひまわり） 矢野誠（市原市消費生活センター） 協力団体：市原市地域包括支援センター トータス 市原市地域包括支援センター ひまわり 市原市消費生活センター	102名
地域交流事業 （歌声喫茶）	5月7日 10月30日 12月10日	楽器の生演奏に合わせて参加者が一緒に歌ったり踊りを観賞したりすることにより、参加者相互のふれあいや交流の機会を設けた。 協力団体：チャーリーウクレレクラブマハロ（2回） アコーディオンいちほら	98名
共生型交流事業 （ボッチャ・パターリング）	7月27日 9月6日 12月20日	障がいのある方とボランティアや地域住民との交流の場としてボッチャやパターリング等の体験・交流会を実施し、障がい者への理解と交流を図ることにより、思いやりのある地域づくりを推進した。 協力団体：市原ボッチャクラブ 市原市スポーツ推進委員	85名
地域デビュー講座	11月1日 11月12日 11月28日 12月16日	アクティブシニアを対象に、地域福祉活動やボランティア活動等の魅力を発信する講座を提供することにより、活動参加を促進するとともに、地域の福祉のさらなる向上を目的に実施した。 講師：臼倉登貴雄氏	86名

成 果	高齢者から子どもまで幅広い世代の交流や支援を通じ、情操の豊かさと多様な価値観を認める福祉意識の醸成につながった。また、3 回目の「なのはなフェスタ」を開催し、施設の認知向上と利用者相互の交流をさらに広げ、施設活性化を図ることができた。
課題・方向性	前年度に一部事業の定員割れが生じたことを受け、今年度は事業の周知方法を近隣に限定せず、広域に向けて発信を行った。その結果、参加者人数も増え、一定の効果が確認できた。引き続き、効果的な周知方法を検討しながら、住民ニーズをよりの確に反映したふれあいの場や交流の場を提供していく必要がある。

② 中高年健康増進施設

地域の中高齢者の健康増進に寄与するために、各種教室を開催した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R6年度	増減
健康増進施設	834	843	2,103	2,563	2,462	2,571	2,511	1,901	1,919	2,054	1,446	2,287	23,494	20,726	2,768

イ) 年間事業実施状況

事 業 名	期 日	内 容	参加者
アクアウォーキング/関節痛予防教室	月 1 回 月曜日 ※7、10、12、2 月 2 回 年 14 回 (6 月～3 月)	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、アクアウォーキング（水中歩行）や関節痛予防に効果的な運動を取り入れながら、体力向上と健康意識を高めることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	172 名
月例講習会 (体力向上レッスン)	月 1 回 金曜日 年 12 回 (4 月～3 月)	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、健康な身体を創るために筋トレなどを行うとともに体力向上と健康意識を高めることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	200 名
安全講習会	毎週 3 回 (火・木・土曜日) 年 87 回	安全管理を徹底し事故防止を図ることを目的に実施した。	210 名
ミニストレッチ教室	週 5 回 年 240 回 ※金曜日：2 回 (月・水・金・日曜日)	準備体操・整理体操としてのストレッチの普及、定着を図ることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	3111 名

成 果	プールの熱源機器の故障による休室はあったが、定期的な事業の展開により参加者も増加傾向にあることに加え、インストラクターの的確な指導により、参加者の健康維持と健康意識の高揚を図ることができた。
課題・方向性	安全講習会の受講者が増えてきており、各事業の参加者並びに健康増進室自体の利用者が増加傾向にある。今後も、より多くの高齢者が安心して利用できる体制と、利用促進に向けた広報や、ニーズに合った事業内容を検討していく。

③ 老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R6年度	増減
大広間	団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	個人	311	297	301	334	296	298	335	279	287	289	282	3,619	3,722	△ 103
和室	0	63	0	7	0	5	0	16	28	0	34	30	183	128	55
合計	311	360	301	341	296	303	335	295	315	289	316	340	3,802	3,850	△ 48

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
健康体操教室	7月～11月 (全10回)	高齢者の健康維持と仲間作りを目的として、健康体操教室(1期:5回、2期:5回)を実施した。 講師:山口 紀美代 氏	249名
ヨガ教室(初級)	5月～7月 (全8回)	高齢者の健康維持と仲間作りを目的として、初心者でも参加できるヨガ教室を実施した。 講師:古川 佳子 氏	227名
ヨガ教室 「中 級」	9月～11月 (全8回)	健康維持と仲間作りを目的として、ヨガ教室を実施した。 講師:古川 佳子 氏	201名
太極拳教室	7月～2月 (全10回)	太極拳を通して心身の健康と基礎体力の向上並びに仲間づくりの場を提供することを目的に太極拳教室(1期:5回、2期:5回)を実施した。 講師:松井 将子 氏、久保田 和彰 氏、野口義倫 氏	198名
“体験”体力向上 ッスン	1月1回 金曜日 年12回 (4月～3月)	健康増進施設未登録者を対象に、健康増進施設の利用促進と高齢者の健康づくりを目的に実施した。 講師:株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	9名
ハーモニカ教室	6月～7月 (全8回)	ハーモニカを通して高齢者に趣味活動の充実と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師:高松 洋子 氏	79名
一文字書教室	1月～2月 (全5回)	書道を通して高齢者に趣味活動の充実と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師:大野 文子 氏 藤田 のどか 氏	26名
太巻き寿司教室	12月17日 1月27日 (全2回)	市原市の伝統的な太巻き寿司の作り方を学ぶとともに交流の場を提供することを目的として実施した。 講師:小出 一子 氏 小出 愛子 氏 内田 朋子 氏	21名
健康教室① 「講 話」	10月23日	高齢者を対象に「腎臓を守るための食生活」をテーマとした講話を実施し、健康と食生活についての知識を深めた。 講師:千葉県がんセンター栄養科 上席専門員 石橋 裕子 氏	19名
健康教室② 「料理教室」	11月27日	料理実習を通して日常の食生活と健康との関りを理解するとともに、参加者同士の交流の機会とすることを目的として実施した。 「腎臓を守るための料理①」 講師:千葉県がんセンター栄養科 上席専門員 石橋 裕子 氏	21名
健康教室③ 「料理教室」	1月29日	料理実習を通して日常の食生活と健康との関りを理解するとともに、参加者同士の交流の機会とすることを目的として実施した。 「腎臓を守るための料理②」 講師:千葉県がんセンター栄養科 上席専門員 石橋 裕子 氏	16名

成 果	健康講座では高齢者の基礎体力の維持・向上を目標に取り組み、参加者の健康づくりに寄与した。教養講座では健康に関する講座や創作活動を通じて、参加者相互の交流や生きがいづくりを促進した。
課題・方向性	一部の事業を除き参加者は増加傾向にあるものの、参加者の固定化が見受けられる。広報いちらはらや地域新聞だけではなく、講座内容を周知するために多様な広報手段の利用を検討する。

④ 児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。

ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R6年度	増減
児 童	121	138	143	210	256	198	226	157	162	100	268	231	2,210	1,827	383
保護者	112	115	139	197	218	205	198	137	153	95	246	231	2,046	1,594	452
合 計	233	253	282	407	474	403	424	294	315	195	514	462	4,256	3,421	835

イ) 図書貸出状況

児童の情操を豊かにする紙芝居や図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R6年度	増減
登録者	6	9	7	8	15	11	5	5	6	6	5	3	86	83	3
貸出(冊)	123	208	186	254	300	193	202	233	51	237	203	238	2,428	2,266	162

ウ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
子育て支援事業			
あかちゃんクラブ 「ほっぷ」	毎週金曜日	生後3ヶ月頃からおおよそ1歳頃までのお子さんとその保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	568名
ちびっこクラブ 「すてっぷ」	毎週水曜日	1歳頃から未就学児のお子さんとその保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	683名
親子クラブ 「じゃんぷ」	毎週土曜日	1歳頃から未就学児のお子さんとその保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	829名
定期企画事業			
わくわくイベント	月2回	児童に工作やゲームなどを通して、情操を豊かにするとともに協調性を養うことを目的として実施した。	242名
うきうきイベント	月1回	児童に読み聞かせなどを通して、情操を豊かにするとともに協調性を養うことを目的として実施した。	216名
必須事業			
子どもボランティア 育成支援事業	5月28日 6月8,25日 7月5,23,30日 8月6,13,20,27日 10月8,29日 11月27,28日 12月3,20日 2月14日	ボランティア体験のきっかけを作り活動を支援していく中で、自発性や責任感を養うことを目的として実施した。 ・わくわくイベントの補助 ・子育てクラブでの手遊びや絵本の読み聞かせなど ・工作準備と作成補助 ・子どもの遊び相手 ・なのはなフェスタでの着ぐるみやイベント補助 ・館内装飾の作成と装飾	79名
自然体験活動事業 「なのはな探検隊」	6月8日	小中学生が自然に親しむことにより自然を大切にし、情操を豊かにすることを目的として実施した。 講師：柳池 繁 氏	17名

単発企画事業				
乳幼児のための救急法	4月27日	救急隊員より万が一のときに必要な心肺蘇生法など基本的な知識を保護者と児童と一緒に学ぶことを目的として実施した。 協力：市原市南総消防署	44名	
親子うきうき☆シアター	12月13日	児童の豊かな情操と協調性等を育むことを目的として実施した。ボランティアグループ「ぐりとぐら」によるパネルシアター等	19名	
世代間交流事業 「昔あそび」 「おはなし会」 「みんなであそぼう！&リース作り」	7月19日 11月29日 12月20日	子どもから高齢者まで様々な世代の方々が交流する機会を作り、昔遊び、読み聞かせ、ゲーム等を通じて、他者との関わり方やおもいやりの心の育成を育むことを目的として実施した。（地域福祉センターと共催） 協力団体：「いちばらシルバー友の会」 「更生保護女性会 南総支部」 「牛久小学校区小域福祉ネットワーク」 「寺谷小域福祉ネットワーク」	46名 9名 32名	
なのはな実験教室	8月24日	児童が科学に親しみ、豊かな情操を育むことを目的として科学遊びや工作を実施した。 講師：柳池 繁 氏	22名	
子育てリフレッシュ 「わくわく演奏会」	9月21日	音楽を通して、親子のリフレッシュに繋げることを目的として、参加型の演奏会を実施した。 講師：Lem's	33名	
親子でバレエ体験	10月18日	親子でバレエの動きを体験することで情操を豊かにし、協調性を育むことや、健やかな子どもの成長を支援することを目的として実施した。 講師：若林 美砂氏	39名	
季節のイベント	4月～2月 (70回)	児童自ら体験することで情操を豊かにし、協調性を育むことを目的として、季節感のある工作やおはなし会を実施した。	919名	
親子の料理教室	1月18日	親子で料理を楽しむことによって子どもの豊かな情操を育むことを目的としてお菓子作りを実施した。 講師：吉野 知子 氏	12名	
相談支援事業	通年	子育ての不安感等を緩和するために実施した。	11名	

成 果	各種イベントで小学生や高校生ボランティアとの交流の場を提供し、豊かな情操や協調性を育むことができた。保護者同士の情報交換と息抜きの場としての利用も増え、事業を通じて交流やふれあいが育まれる地域の居場所となった。
課題・方向性	今後も利用者の安全配慮に努め、児童にとって安心・安全な場所の提供と親子の交流の場の充実に努めていきたい。小・中・高校生の来館促進のため、学生ボランティア事業でのボランティア体験や学習スペースを用意するなど、ホームページや各 SNS 等をさらに活用するなど、工夫を凝らし、来館促進へつなげていきたい。

⑤ 障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R6年度	増減
障がい者交流室	529	508	516	607	521	518	669	515	542	557	544	605	6,631	6,475	156
会議室①	79	276	250	581	189	308	218	122	477	47	220	117	2,884	2,845	39
合計	608	784	766	1,188	710	826	887	637	1,019	604	764	722	9,515	9,320	195

(5) 福祉避難所開設運営訓練の実施

災害時、市原市災害対策本部支援班からの要請に応じ、本会が管理運営する指定管理施設において、福祉避難所として開設運営が迅速・円滑に行えるよう、各施設が策定した「福祉避難所開設・運営マニュアル」に基づき、地域関係団体等の協力のもと、開設運営訓練を実施した。

期日	1月31日（土）
場所	市原市老人福祉センター
参加者	43名
内容	「福祉避難所開設・運営マニュアル」に基づく訓練 ・市との連携確認、避難所の開設準備、避難者の受入れ 協力団体：国分寺台地区社会福祉協議会、国分寺台地区民生委員児童委員協議会、市原市総務部危機管理課、市原市保健福祉部高齢者支援課
成果	指定管理施設職員と地域関係者の協力を得ながら、避難所の開設から閉鎖までの流れや地避難者役の受入れ、処遇対応などを体験することで、職員の役割や運営課題等を再認識することができ、マニュアルの検証や見直し等の必要性を検討する契機となった。
課題・方向性	継続的に訓練を実施しながら、職員の避難所運営スキルの向上や地域の福祉関係者と連携した運営体制を構築するとともに、訓練で把握した運営課題等を整理し、マニュアルの検証や必要な見直しを図っていくこととしたい。